



圖解

量地指南前編

中

41
5275
2



明  
5275  
2

戸川  
藏書

量地指南南卷之二

勢南 處士 村井昌弘編述

量盤術遠近法上

左右正開方

爰小ハ右正開の作法ヲ述ぶ。  
左正開の法も准して知るべし。

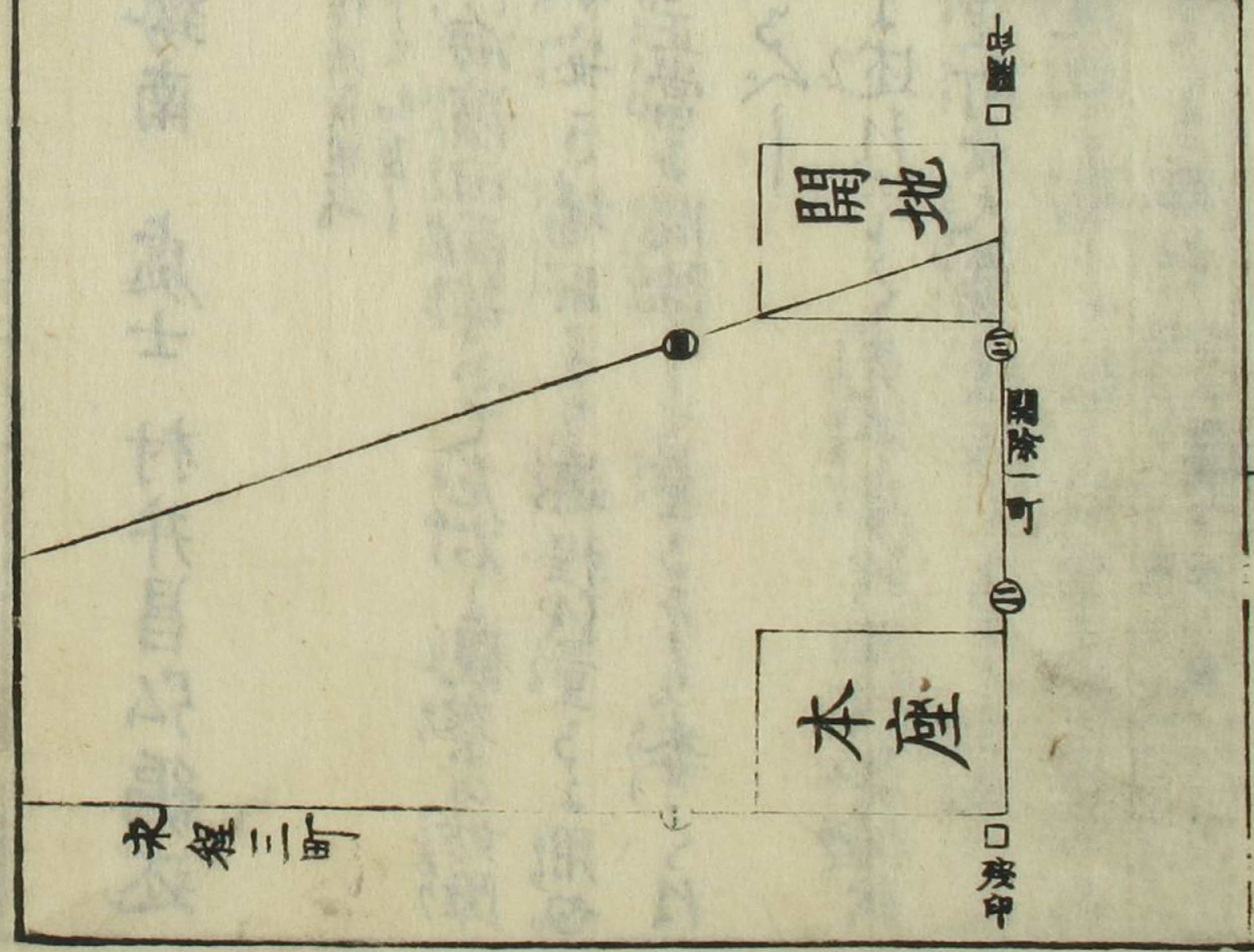
此術ハ廣野平易又ハ海濱田面等ふて左右ノ觀察の妨障  
なく開地心ノ任を求安き場取より遠程ハ量るる用也。  
其法左右何れも成と正當に開除して量るなり。委しくは  
術中ノ記と勤く知るべし。

術云下ノ圖とる往々初卷ノ述れど先本座ヲ選び目的法  
定め本座より目的までの里町法大槩幾程なるを先量し。  
先量しハ空の目づとり云々。其遠近ノ應として假し開除の地ヲ求め。  
其法ハ初巻ノ初巻ノ法也。開除の作法大畧古法の如し。始計とハ本座ヲ選び目的  
三十分一ニ随ふなり。加へば始計とハ開地ハ未だ類ひしるべし。

量地指南南卷之二

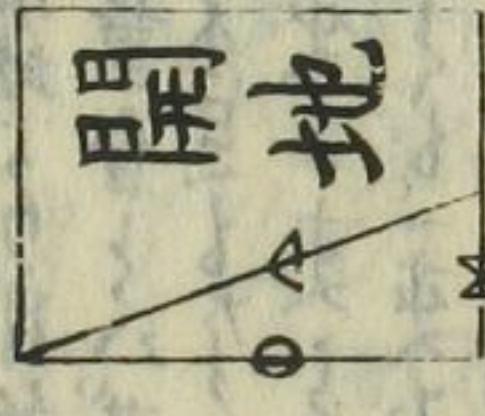
早稻田大學  
27.6.4  
藏書

盤居より以前の法なる。の作法  
 以下皆是よりなすべし。ぬる。①本座より  
 采心く整正ひてのち。②本座より  
 盤の方正居。盤北此。此。盤東  
 左と。盤西右。定規を  
 定規。見込。見通。再見。見返。  
 盤東より正目的見込。  
 其盤揺らぬやうに居置  
 見通の法おろし。本座の盤  
 揺らぬ事。每術おろし  
 ③始計小假。石方へ。定置  
 開地。竿をのり  
 正の間数。右開を量り。彼方へ  
 開印立。今こは。圖す。求程の



町数三町のこと。開除の間数  
 六間とする事。古法三十分一  
 相叶とソレ。下は図す所ハ  
 小畝ろり。其織斎。一町  
 の開と定む。往々後章より取と  
 見。即定規を  
 般北に載正は彼印を見通  
 開印と定規と。正は合とこハ  
 若不合とこハ。い。彼印  
 進退せり。定規。然りて  
 正は合とこハ。開地へ  
 本座より残印を立す事  
 每術同。下是。微へ。③開地  
 正。定規。盤北に載  
 残印。再見。盤の方  
 正。残印と定規と。合とこハ  
 正。不合とこハ。

大成之圖



此区ロハ三也。開除一町ノ縮ナリ  
 此〇所ハ四也。求程三町ノ縮ナリ  
 今渾登ヲ以テ区ロヲ一変ニ交ニ  
 一町ノ矩ト名ケ其矩ヲ以テ〇ヲ  
 量ニ三交アリ三交ハ三町ナリ  
 是求程ノ町数ナリ  
 此△所ハ五也。假借トテ假物ナリ  
 故ニ大成ノ後ハ省ヒテ不用ナリ  
 凡量知作法每術此例ニ倣ヒテ  
 察スヘシ。委ハ本文ニ記ス。又初卷  
 ニ往テ蓄カニスヘシ





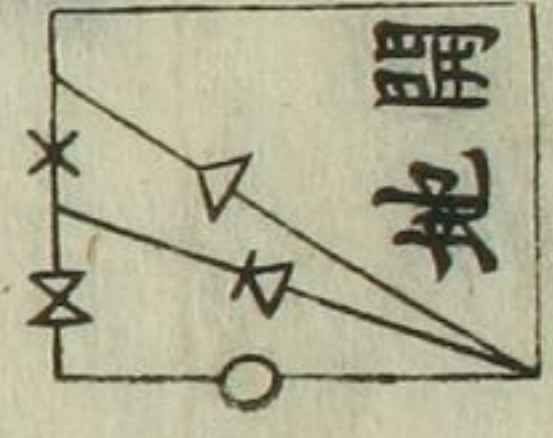


前後當開方

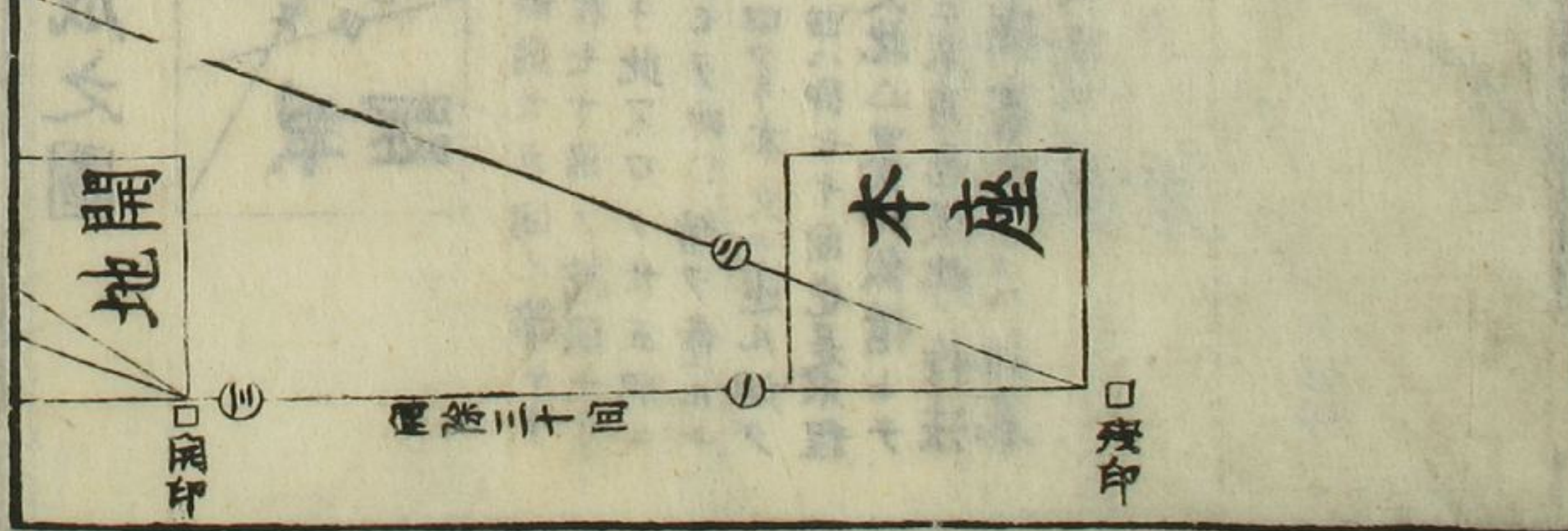
爰ふハ。前當開の作法依り。

後當開もこれに  
 此術ハ本座の地形或ハ  
 礮塘田疇又ハ窄道橋上  
 等して。左右へ正し  
 斜し。開地求が。取  
 うり遠程を量り用也。  
 其法前後何とへ成も。  
 勝手より。三方へ正當  
 進退して開地を求り  
 量るなり。但此術ハ目的  
 の外ハ假目的と定め。其

大成之圖

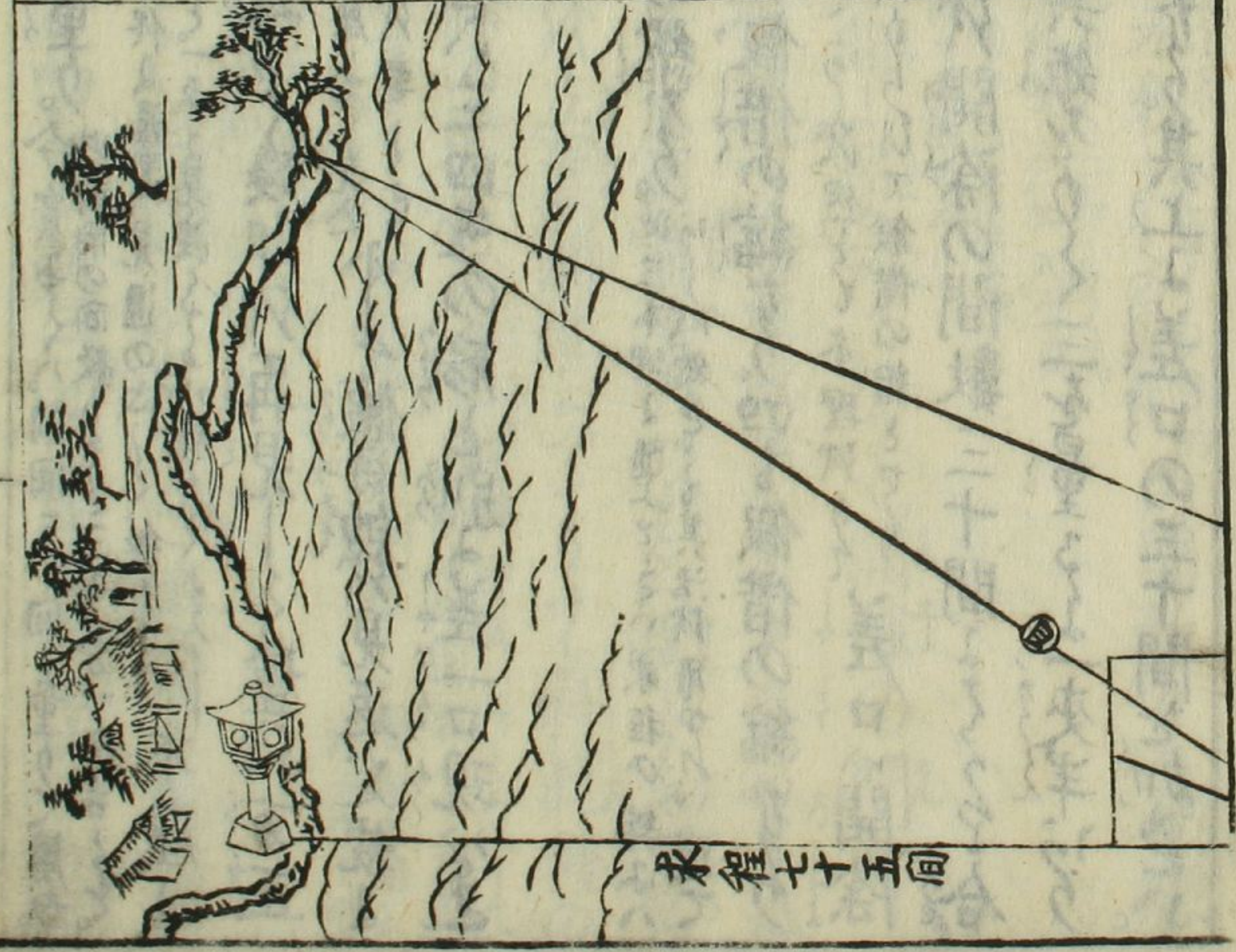


此ハ差也。用除間ノ縮也  
 又ト合メ求程ノ縮トス  
 此ハ三也。ト合メ求程ノ  
 間数ナリ。今渾發ヲ開キテ  
 ×ロヲ一夾ニ夾ミ間ノ  
 矩ト名ケ其矩ヲ以テ×ロ  
 ノ量ルニ一夾半アリ一夾  
 半ハ四十五間ナリ其上へ  
 ×ノ間ヲ加レハ即七十  
 五間是求程ノ間数ナリ  
 此ハ四也。假借也  
 此ハ五也。假借也  
 此ハ六也。假借也  
 此ハ七也。假借也



兩目的の間の間數を種  
 とく。進退の間へ移し  
 量るなり。其ハ二事  
 術中ノ記と

術云。下ノ因。品々作法の  
 始計。後一。本座  
 盤以方正。居盤東より  
 正。本目的以見込。其盤と搖  
 前ノ事。二。其盤良以要  
 小。定規以斜し載せ。假  
 目的へ見込墨以引。走ら  
 正。不外。彼方へ等と



とく何程少くも間敷を量り。今爰ゆくハ。前用三十間を量りて用也。  
此前用の間敷を量りて三十分一をまきと

開印立此時本座の盤は其俣居置見通の心ゆく盤東より本座よ  
本目的と此用印と定規と一平見渡りハ弥りて

殘印立立置三扱開地より迂りて殘印立再見ハ盤立方正

小極四盤良ハ要最初本座より見込少く假目的見返定規よ

随ひく墨引然るとととハ三四五の形と別差一口現ハ

即盤面大成と

今現於所の三の求程の縮ハなり。此三本理ハ隨ハとハ求程の縮ハハ

其術ハ擊ハろハ故ハ今ハ畧ハ法ハハハ五ハ假借の縮ハなり。四ハ假借の縮ハなり

とらひく三を求程の縮ハとハ四ハも本理ハハハ然ハとハ本理ハハハ差口の開除

前當用ハの縮ハなり。其差口ハ開除の間敷三十間ハとハ合

渾糸ハをゆハ此差口を二変ハ其矩をりく二を量りハ一変半ハ

一変半ハ一変半ハ四十五間ハなり。其上ハ差口の三十間ハ加ハ

都合七十五間ハなり。是即求程ハ本座より目的の間敷ハなり。前用の

作法ハなり。後用の量法ハハハ差口ハハハ三ハをハ入ハり。

即是ハ求程ハとハ差口ハハハ其遠程ハハハ不ハ加ハ入ハり。

殘子一開方ハ前ハ種ハとハ殘ハとハ法ハとハ推知ハとハハ

此術ハ本座と開地との間ハ沼ハ河ハなり。開除の間ハ町

幾許ハもハなり。がハ場所ハ少く遠程ハハハ量りハ用ハ其法

開除の間敷ハ應ハじて本座の前後ハハハ成ハとハ正當

の間敷ハハハ種印ハ立置開地ハハハ時ハ此種ハの

印ハ見返ハてハ開除の間敷ハハハ量知ハ種印ハ外ハ用ハとハハ

然ハしてハ其求程ハ本座より目的を量り知るハ開除の間ハ沼河ハなり

此術ハを用ハ事ハ可ハなり。ハハ勤ハ知ハハ

術ハ云ハ下ハ回ハとハ作法ハのハ始計ハとハのハ一ハ本座ハ盤立

方正ハ居盤東ハより正ハ目的を見込ハ二ハ其盤東の正中ハより





の間數十五間は量合其矩此矩種間の間數十五間の矩なり是ハ開除の間の數を知へる爲の矩にして別用ありをのり其四は量るる二変りり二変ハ即三十間是開除の間數なり此三十間と本場の三の縮口は各々量合あり盤西の三四五六本座目的開地ハ縮形あり其三は種の爲は量知る開除の間數二十間より合三の縮口長短いりやと有と種<sub>の</sub>爲は量得る間數より合と合とをのり其矩盤西の三ハ一変一変をのり其四盤西は現るる四ハと量るる二変半一り一変一変二変半ハ即七十五間なり是求程の間數なり

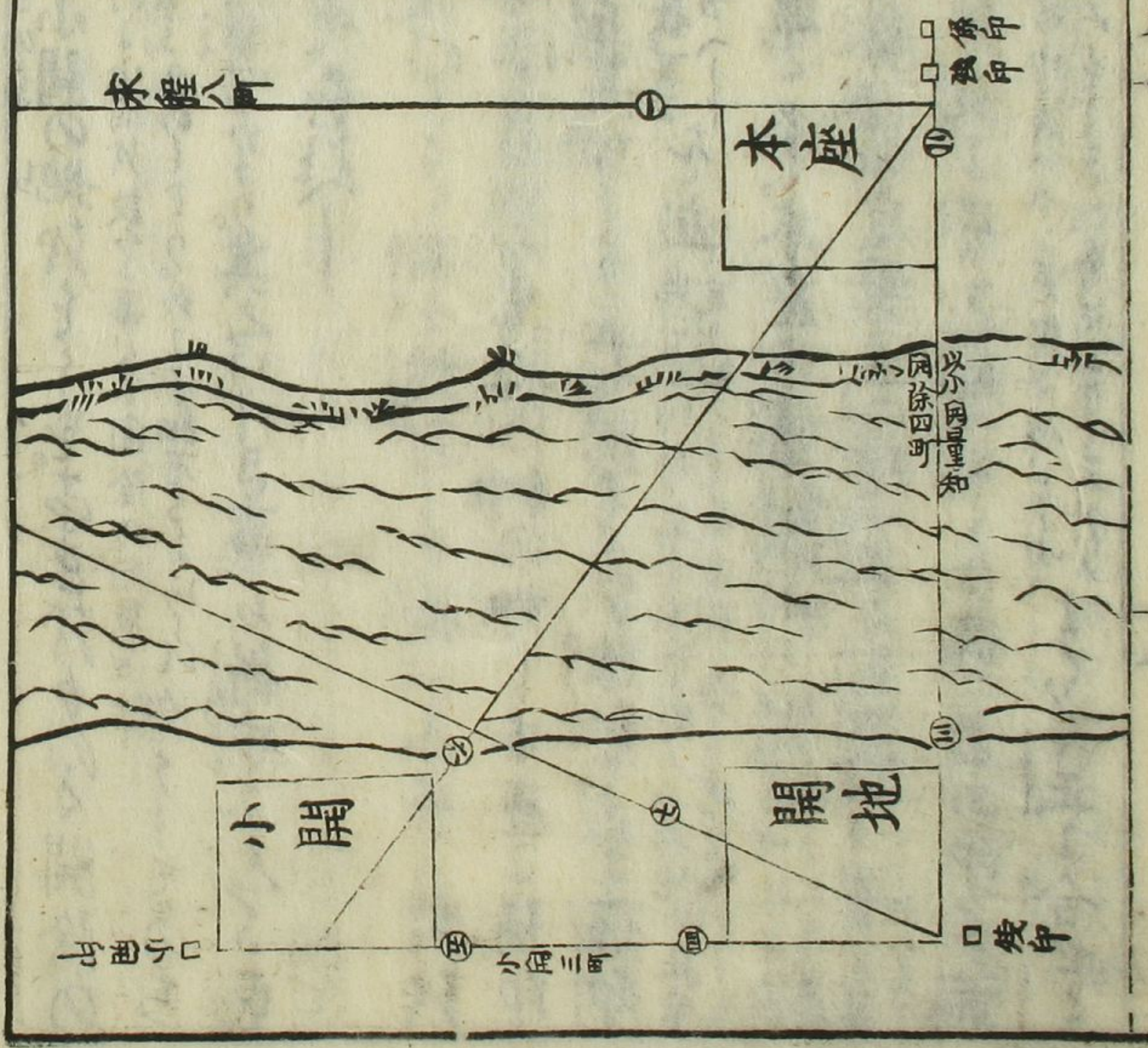
正當兩開方

此術ハ本座と開地との間ハ沼河田畑などありて開除の間數幾許とを量かこ故ハ前術の如く種印は残して開除へこすとも本座の前後もまゝ數多障ありと其事成かこ取りり遠程は量るる用也其法開地の

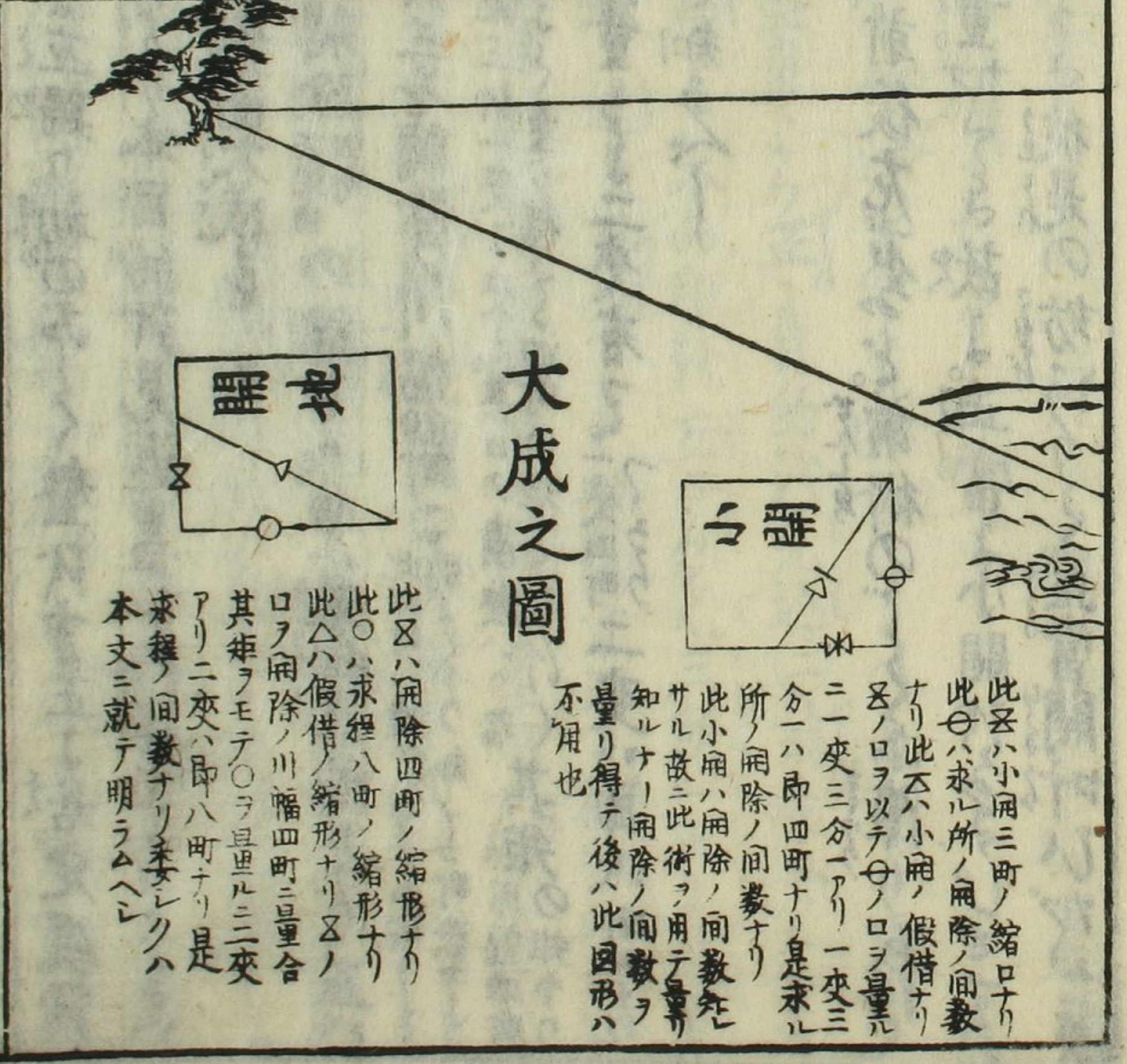
外ハ又正當ハ小開の地はともをまじはれり開除の間數は量り別ハ小開は設る事を開除の間數を量る爲のなり外ハ子細有るなり然るてのら其遠程は求め量るなり其より一事ハ術中ふとるま猶又圖と按しておれべし

術云下は図を作法はごとく品々始計して後一本座は盤は方正ハ居盤西より正ハ目的を見込三例の如く本座は殘印此殘印の立つるもを立其印より五七間を除いて正ハ係印残印と係印と向の間數を立此二本の印正ハ不合時々開地の正當なり定りがり尤念は入るを置るなり開地の印は見通ごとく本座の盤本座より目的を見込少くも不揃して居置少く彼二本の印と盤面の定規と三所一正ハ見渡此見渡即見通三開地はより盤は假し居る盤北より彼二本の印と二取一正ハ再見し二本の印は一本は見ゆるなりよりく正ハ合せく

盤方方正極四  
然其盤の彼方  
正面は小開の地  
求め。前當用  
三十分印を立  
用地の印より小開の印  
まで。同繩同竿を用ひて  
何やどいも同敷を定む  
べし。大算其同敷は本用  
の半分。三分一程  
を其法とて。開地  
より正は是を見通。  
五 扱小開の地より迂り  
盤地居る開地印を  
再見。開地印は残印  
として再見を  
六 又盤面は定規を



載て本座の殘印は  
見返墨は引爰り  
おの種の三四五の  
形現る。三ハ小開  
の縮なり。四ハ本開  
の縮なり。此三ハ小開  
の三町は量合其矩  
小開の町数  
三町の矩 少く四ハ  
量より一夾三分一  
あり。二夾ハ三町より  
三分一ハ一町より即  
開除の川幅四町と  
量知。此四町を後の三  
縮口より少く



大成之圖

此ハ小開三町ノ縮口ナリ  
此ハ求ル所ノ開除ノ同敷  
ナリ此ハ小開ノ假借ナリ  
各ノ口ヲ以テ母ノ口ヲ量ル  
ニ一夾三分一アリ一夾三  
分一ハ即四町ナリ是求ル  
所ノ開除ノ同敷ナリ  
此小開ハ開除ノ同敷を  
サル故ニ此術ヲ用テ量  
知ルナリ開除ノ同敷ヲ  
量リ得テ後ハ此図形ハ  
不用也

此ハ開除四町ノ縮形ナリ  
此ハ求ル八町ノ縮形ナリ  
此ハ假借ノ縮形ナリ  
口ヲ開除ノ川幅四町ニ量合  
其矩ヲモテ○ヲ量ルニ二夾  
アリ二夾ハ即八町ナリ是  
求ル同敷ナリ是レクハ  
本文ニ就テ明ラムヘシ

⑦然して後開地は立歸り。初のおとく盤は方正居。定規は斜載せし盤長より本目的は見返墨を引然らざるとさし三四五の形現は盤面大成と

今現る所の二六開除左正用の縮なり。四八求程の縮なり。五六假借の縮なり。其三を開除の川幅四町此四町ハ種の為ハ小用一町別ヨクウリ知ル町数ナリ量合渾全ナリ此三伏一変ハ変ニ其口の廣狭ハ程成とも種の四より量り得る四町の矩となげく其矩の矩なり。是求程の間數と知るべし

正斜兩開方

此術ハ本座の前後左右など前術のごとく不障りおほく。開除の間數量がごとく故は正當ハ小開はるさしひととごとし。其地もさして彼是の妨りなく。正當開叶ひが

取より。遠程は量るよ用ゆ。其法小開は斜は求り量る。大畧前術正當用方よたごし知べし

術云下は因よれ取をり云品々作法のおとく始計しとのり①本座小

盤は方正居。盤東より正よ目的は見込②前章小よ如く其所は殘印と係印と二本の印は立させと。三所一正よ見渡

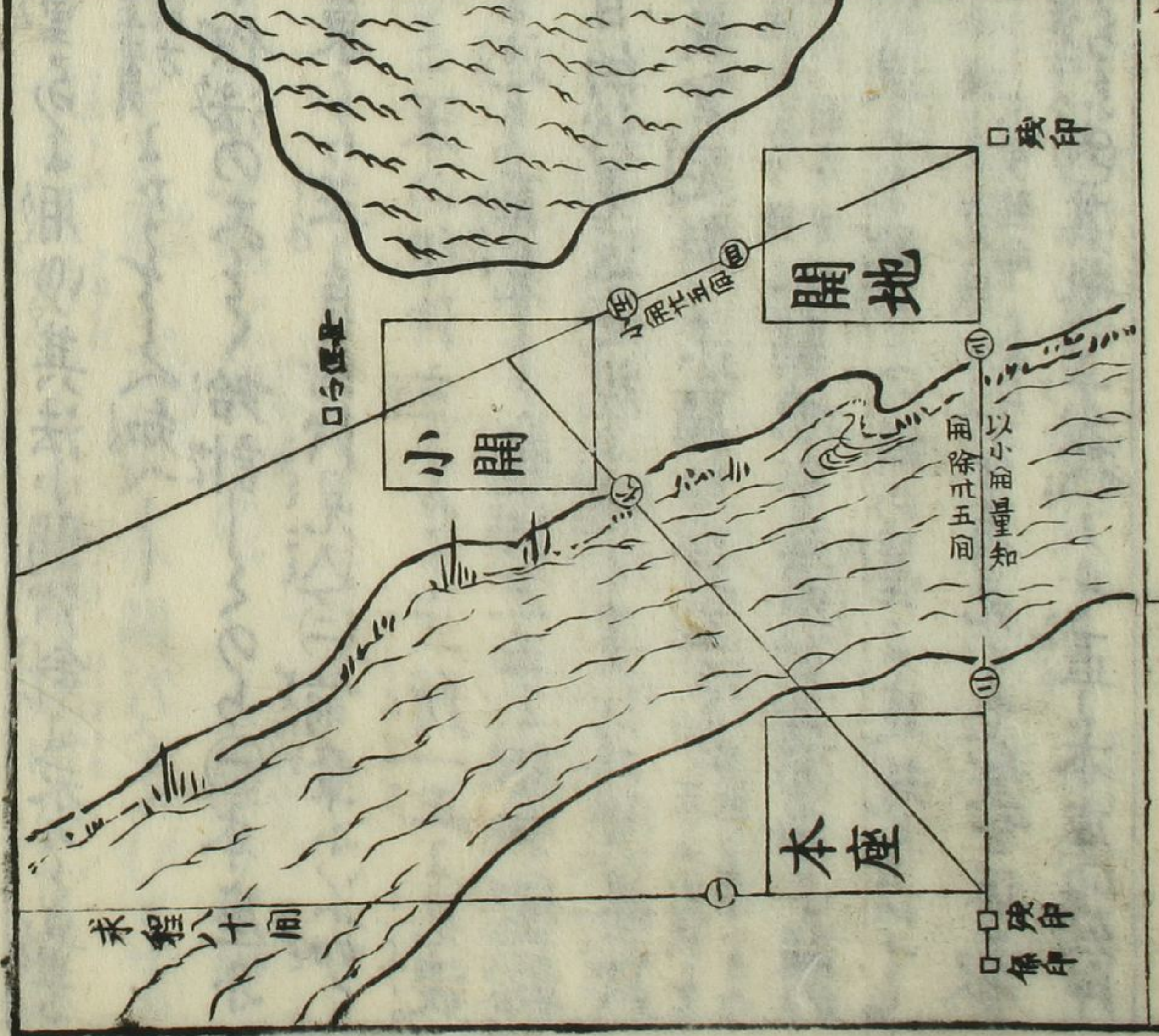
是見通の③扱開地は迂り。再見し盤は方正極④盤乾を要しして斜は本目的は見返。定規は隨く墨は引。其墨は

條理しして彼方へ間數を定斜は小開印は立させ正よ小開を來る事より

不得正し此墨は隨ぐい。斜を用ゆ。開地は殘印を立⑤即小開の地より開地より引渡る。盤中の斜の墨は定規を以て

開地の殘印此殘印ハ本座より見通を再見して。盤を正し居。又此取む。本目的を見返す。⑥其盤を不揺して直し本座の殘印

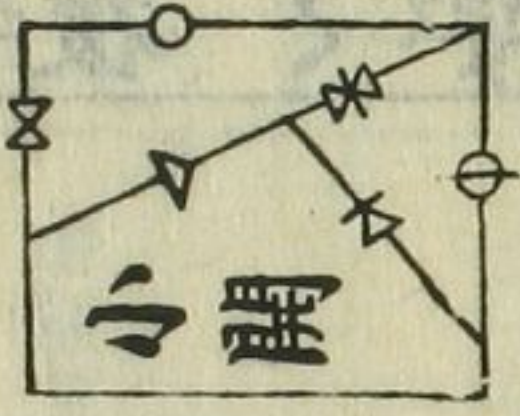
を見返。定規は隨て  
墨坎引。然るもこさ  
盤の南北兩所は三四  
五の形はつゞぎ。盤面  
大成と  
今現る取の盤北の  
三四五ハ本座開地  
小開の縮形なり。其  
三を小開の間數二十  
五間は量合其矩を  
其四を量うよ一変と  
五分の二あり。一変ハ  
廿五間



五分二ハ 即開除の間  
十間なり  
數三十五間と量知  
此三十五間を後の  
三の縮口よりかく  
盤南の三を開除乃  
川幅廿五間は量合  
量合の作法。往々前術は  
述る取は推して知るべし  
其矩ハ開除の川幅  
四を量ふよ。二変と  
七分の二あり。二変ハ  
七十分  
七分二ハ 二変七分二ハ  
十間なり  
即八十間なり。是求  
程の間數あり

大成之圖

此ハ小開北五間ノ縮口ナリ  
此ハ求ル所ノ開除ノ間數ナリ  
此ハ小開ノ假借ナリ又ノロラ  
以テテ量ルニ一変五分ノ二  
有リ一変五分ノ二ハ即北五間  
ナリ是求ル所ノ開除ノ間數  
ナリ  
此ハ開除北五間ノ縮口ナリ  
此ハ求程八十間ノ縮口ナリ  
此ハ假借ノ縮口ナリ又ノロ  
ヲ開除ノ北五間ニ量合其矩  
ヲ以テテノロラ量ルニ二変七分  
ノニアリ二変七分二ハ即八十間  
ナリ是求程ノ間數ナリ積又  
本文ニ考合スヘシ

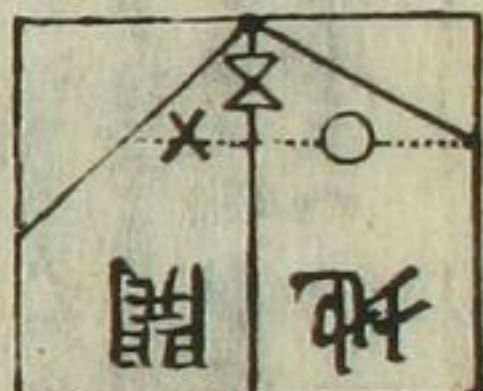


兩知一開方

爰不ハ左右を量る法なり。

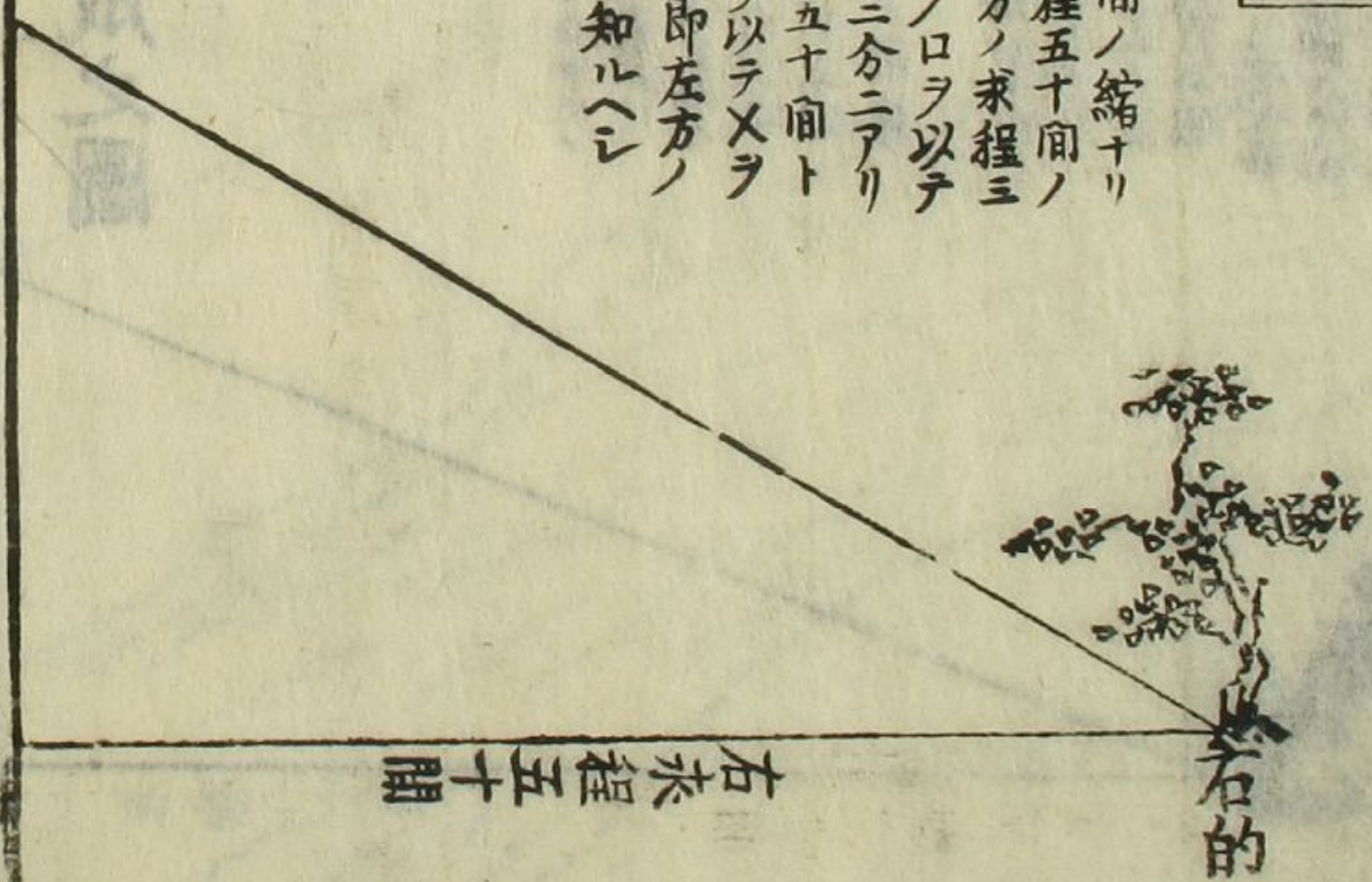
前後を量るも其術々あり

此術ハ今此所よりして或ハ左右の遠程を量或ハ前後の遠程ヲ知むと欲するも一術を以て兩旁の求程を一同に量知る小用也。其法本座ヲ正中ノ數に左右も前後も心よはけり然るも量るなり。猶又圖を按



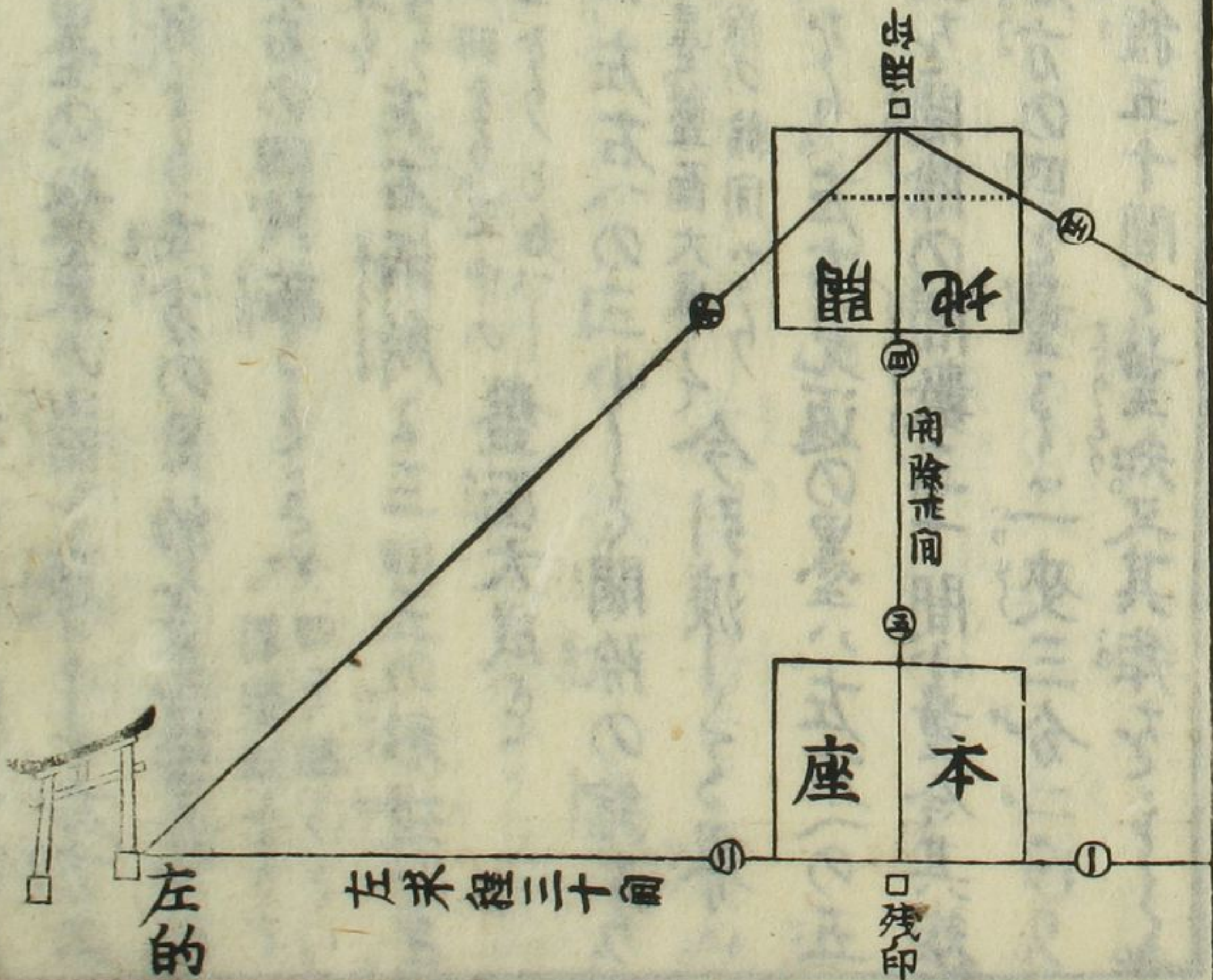
大成之圖

此区ハ兩陰三十間ノ縮ナリ此ハ右方ノ求程五十間ノ縮ナリ此ハ左方ノ求程三十間ノ縮ナリ又ノロヲ以テ○ヲ量ルニ二交三分ニアリ即右方ノ求程五十間ト知ルヘシ又ノロヲ以テ×ヲ量ルニ二交アリ即左方ノ求程三十間ト知ルヘシ



ちく工夫とて

術云 下は圖するまが作法のむとく品々始計しそのら一  
本座は盤ヲ横小方正居  
盤南と右より盤北を左より盤東を彼より盤西と此よりと盤西より右方の目的を正し見込ニ同所より左方の目的を正し見込ニ開除の間數三十間を定む彼正し開印立立さる然して盤の東西の正中に正横に墨ヲ引渡し此墨に定規を當て

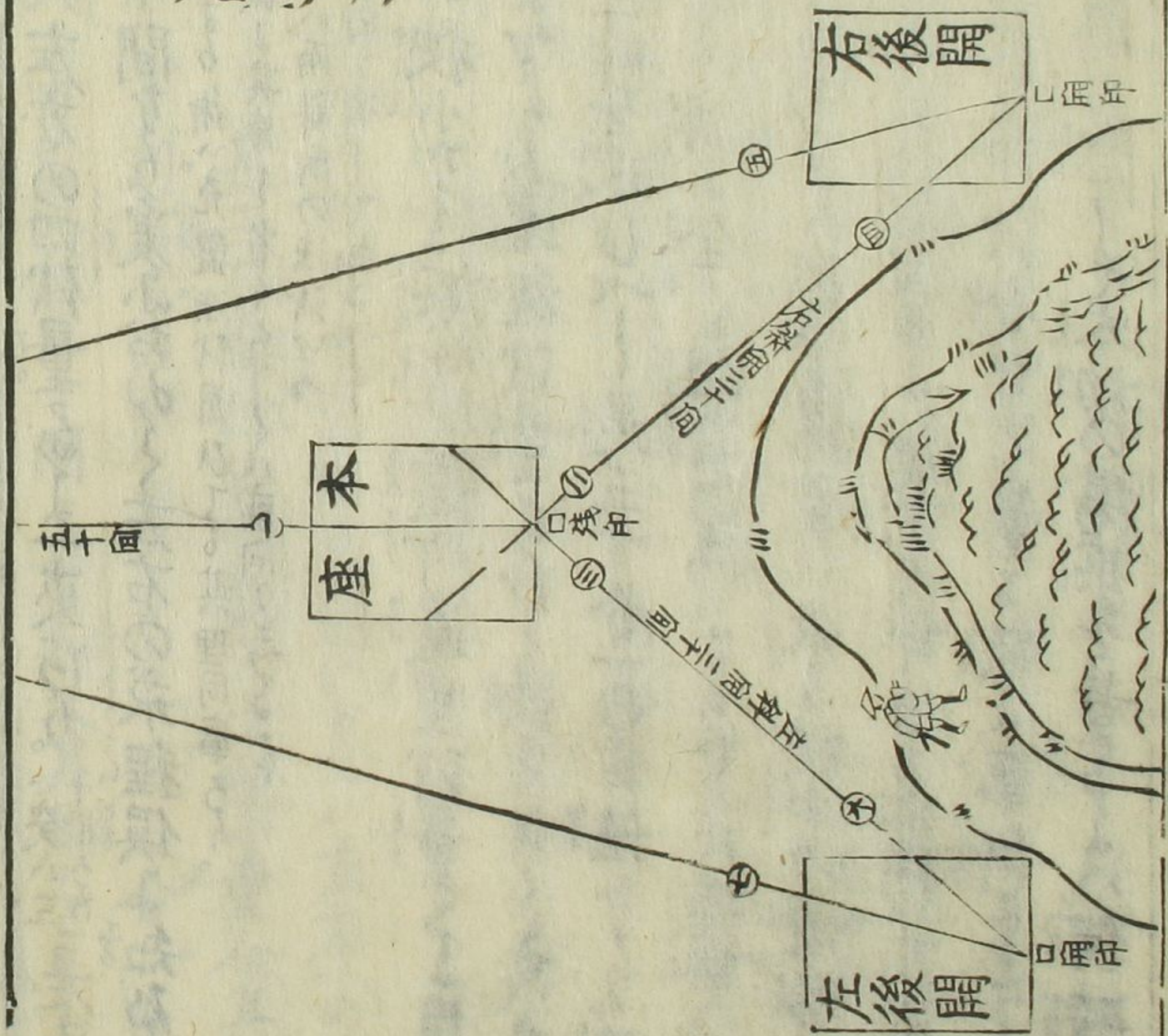




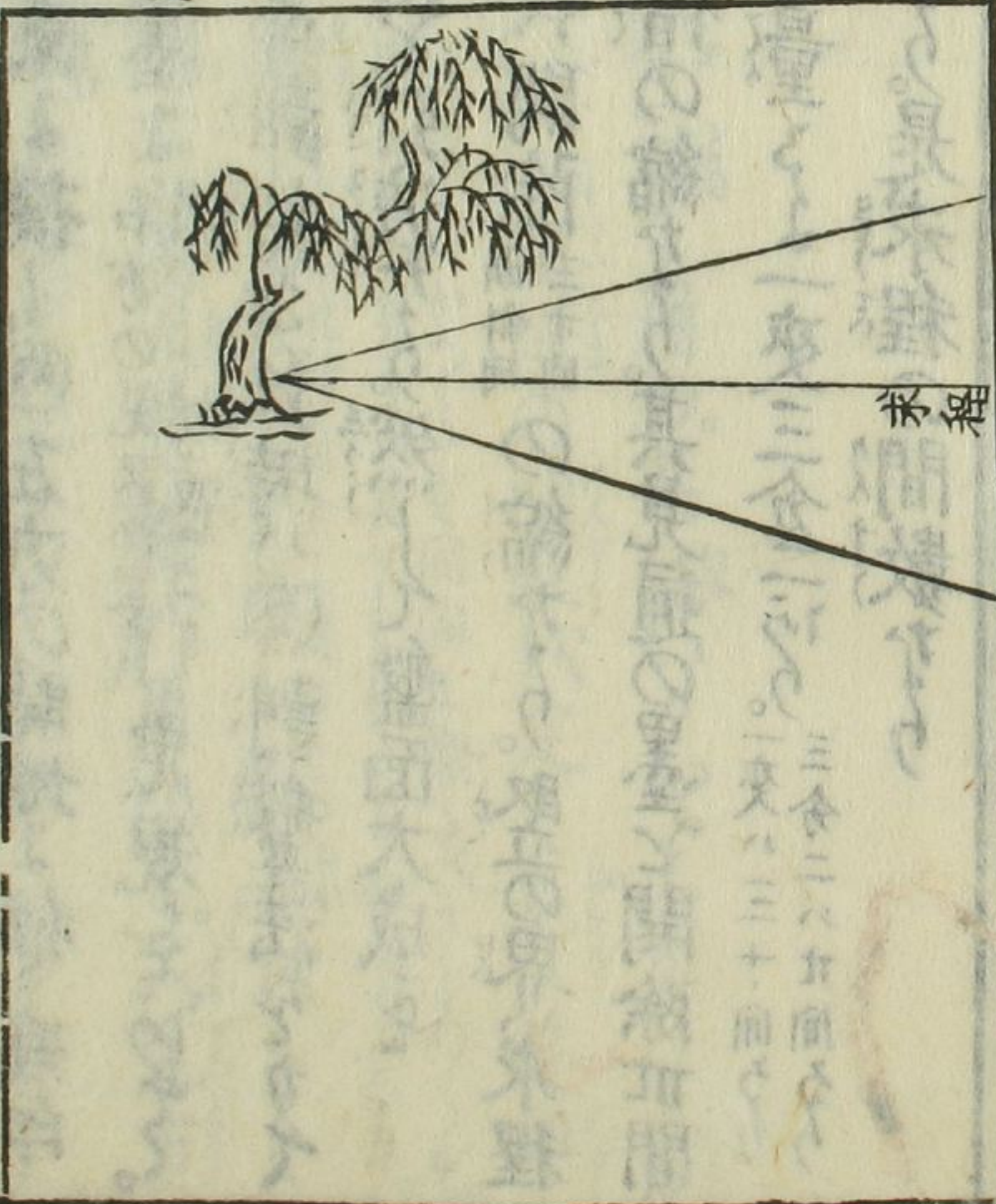
大成之圖



此又ハ幅除三十間ノ縮ナリ  
 此〇ハ永程五十間ノ縮ナリ  
 此△ハ假倍ノ縮ナリ此又ノ  
 斜ロヲモツテ此〇ヲ量ルニ  
 一夾三分ニアリ一夾三分ニ  
 ハ即五十間ナリ是永程ノ  
 間数ナリト知ルヘシ



此法然ラズ。又いひま  
 の術や。家初量置  
 るる法と。眼力の内や  
 まり有哉と疑ハ。三  
 事等何バ。此法をりて  
 改正まべ。其中否立  
 どころ小頭系旁とて  
 良法と謂べ。



術云 下は図をれ まが盤の正中は 盤南より盤北へ 墨引引く。一  
 作法のどく本座は盤は方正居其盤中の墨一定規次  
 當く正は目的は見込 二 斜は右後へ間數 右斜間を定開印を立  
 させく。盤中の墨の盤北の端を要小して。盤東より是と見通

③斜は左後へ右後と同間、開印は立させ盤中の墨の盤北の端を要ふ。④盤西より是は見通。⑤初右方の開地は遷つ。残印は再見して盤は極。⑥其再見の墨は端と要ふ。⑦定規と引て本目的は見返墨は引。然して今見返さる盤西の墨は毫釐も違ひぬやうに盤東は摸し。⑧左方の開地は移り残印は再見して盤は極。⑨其墨は右方の見返の墨は定規を引て本目的は見返初左右の墨齧齧の時ハ界。⑩割盤法をかりて見返の墨の盤南の端として正取立界を引渡かり。然して盤面大成と。今現る所の見通の墨ハ開除兩斜向三十間の縮なり。取立の界は求程の縮なり。見返の墨は假借の縮なり。其見通の墨と開除は間量合其矩とわく界と量るは一変三分二なり。一変ハ三十間より三分二ハ十間なり一変三分二ハ即五十間なり。是求程の間數なり。

### 量盤術遠近法下

#### 神速大盤方

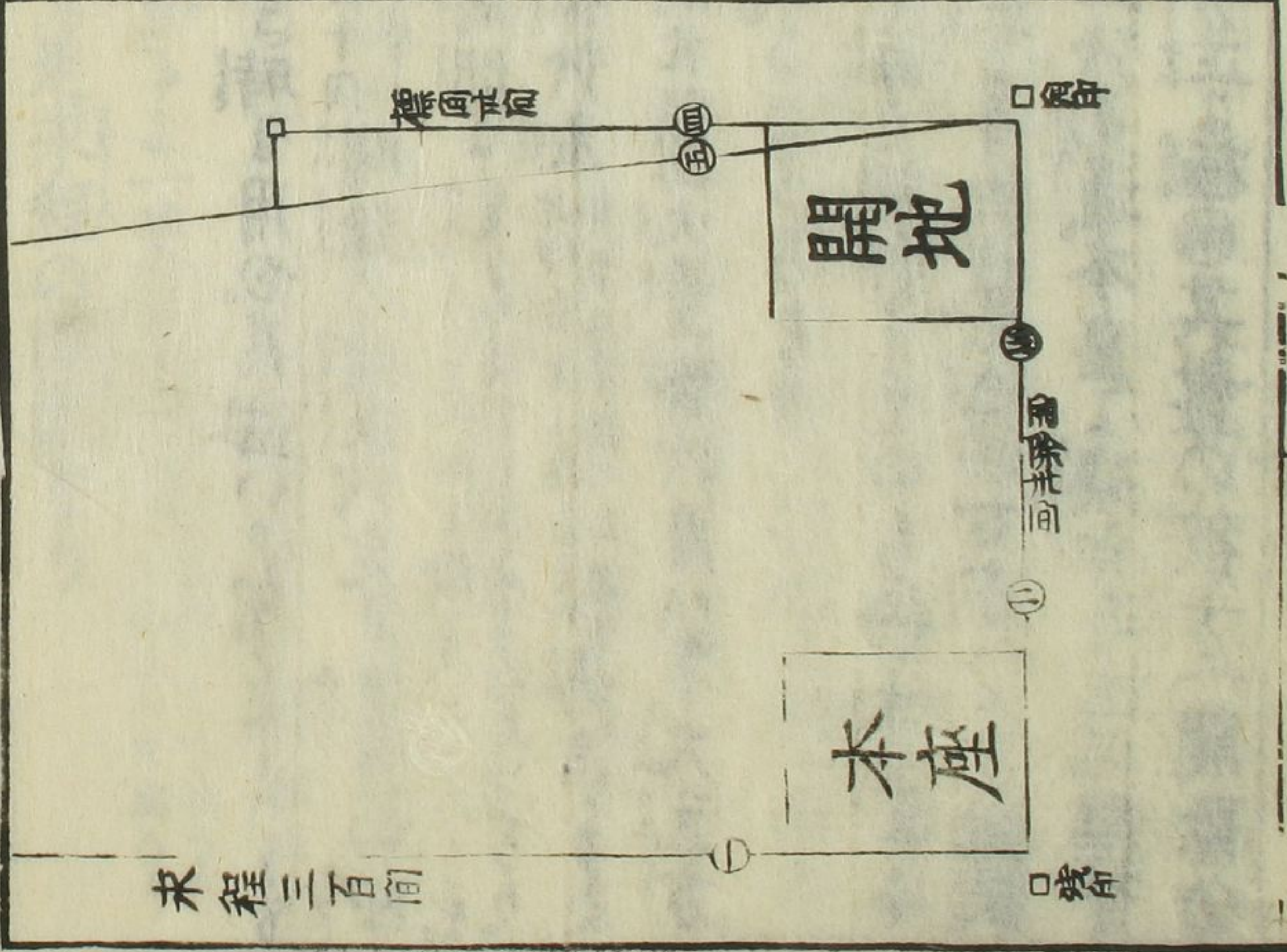
此術ハ目的遠く開地少き時ニ用也。其法は、五間七間より十間十五間乃至二十間、三十間まで其地より用く。開除の間數は定む見通の印と立其彼方へも開除の同間。爰より其地より同間を降るべし。此印自余は用るといふ。是は間數は定正は合せし標は立。是は開除の同間。大元方の作法ハ、術を勤るころなり。

術云所よりて作法のおとく品々始計してのち、  
 ①本座小盤は方正は居盤東より正し、  
 ②右方へ正し、  
 ③間數を定、  
 ④右正開地は求るこれ見通本座は残印を立、  
 ⑤開地は移り残印は再見して盤は方正は極、  
 ⑥其盤の彼方へ開除の

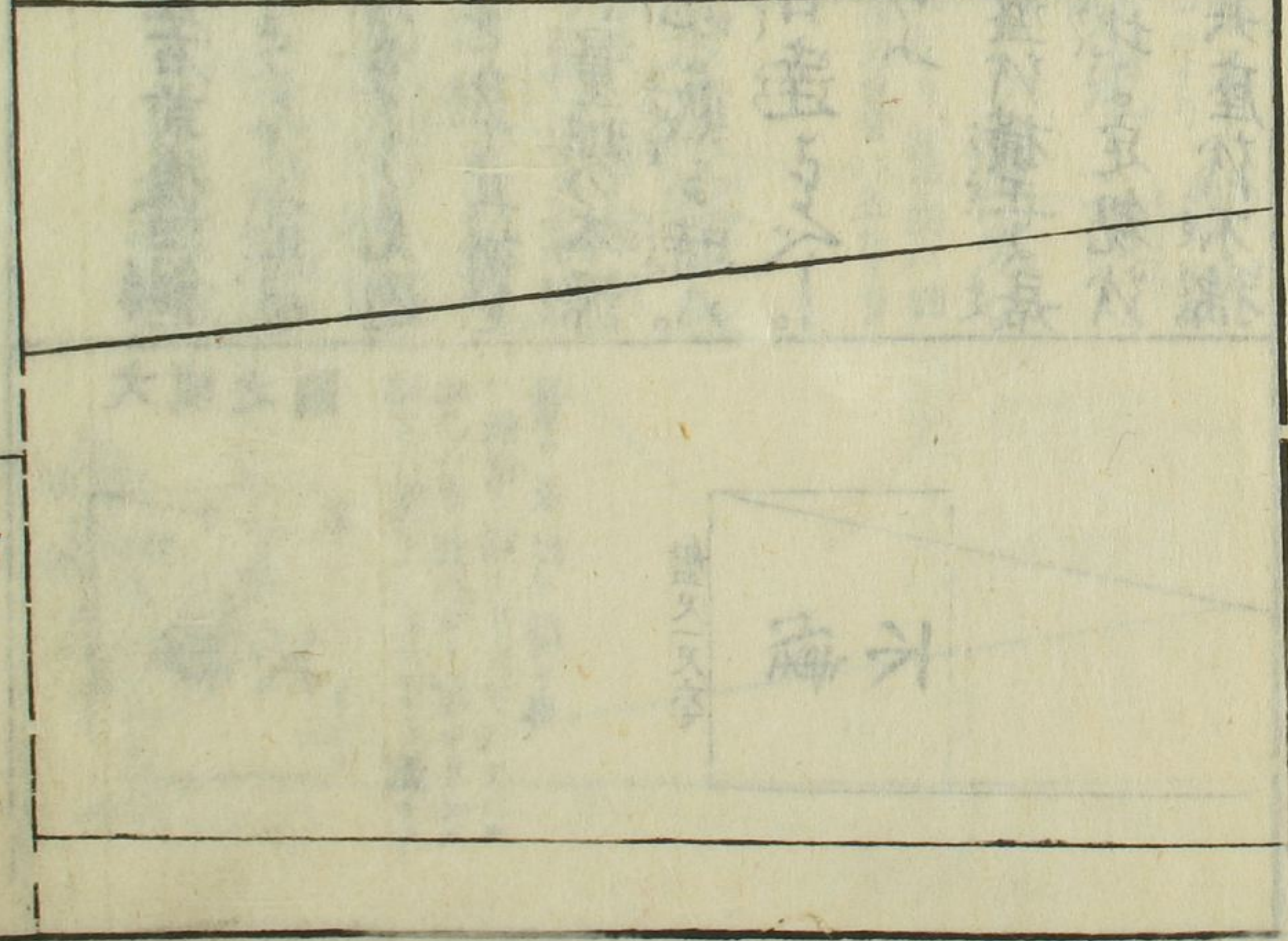


同間、間數決定、開印と正  
 成、標立。此印、開印と  
 正を外さぬ  
 や。随分念入てまべし。正當  
 いさぐり、置ふとさ、大差と成る。標  
 標の制作も、尋常と異なり。檀を  
 むく作る。方面二寸、堅長二尺二二寸  
 なる。但地は入を、外なり。盤の  
 物尺をり。此長尺の節と。下は  
 石穴有り。頂より五分去く。定規を  
 徹を小竅けり。楯作用宜ま、任べし。

○盤乾より小斜、見返時、  
 彼標、徹置ゆる定規の  
 先、差出、盤面の定規  
 と目的と彼標、徹ゆる定規  
 の先と、三物一正、見渡なり。  
 然らると、三四五の形



現盤、盤面大成。此作法は  
 大元方と勤るころ、持なり。  
 今現る所の標より差出、  
 定規三たり。開地より標  
 まるの地徑、四たり。盤面  
 の定規より標の定規の先  
 まる、五たり。其三、開除  
 の間數、間、皇合。三の定規と  
 三十間の矩、其矩、  
 十交、即、三百間なり。これ  
 求程の間數なり。

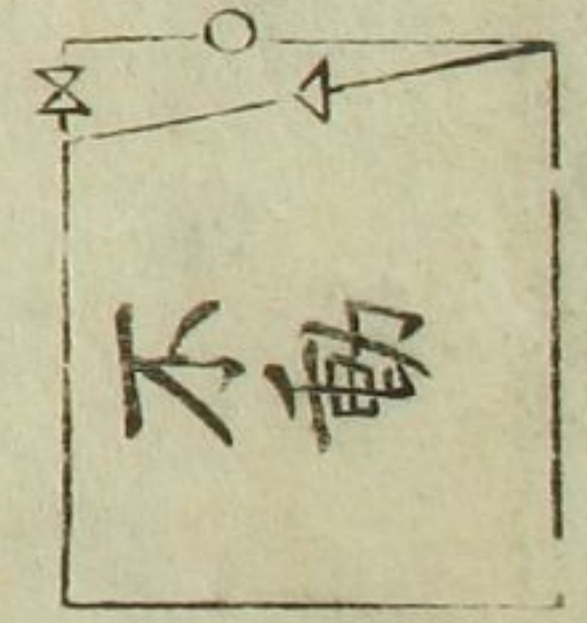


規矩大元方

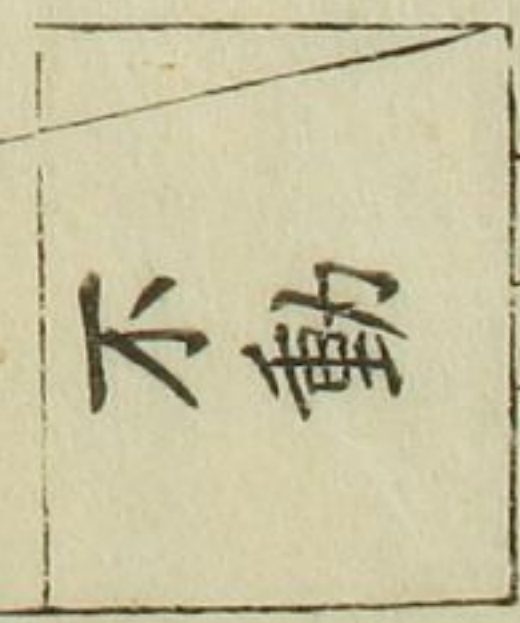
此術の四方障礙多し。左右前後四斜の開除との叶ひがこと此小用也。其法本座は不夫して居るを見込見通の事は勤め。盤尺をりて其術を竭せり。抑此法此理の量地の本源量盤の玄微なり。故に此は熟る時ハ其他の不學とすとも自達とすべし。此謂は號て大元方といふ

術云 下は区す。まの本座は盤は横正居。盤南を右とす。盤北を左とす。盤東と彼と。盤西と此と。盤北は定規は載て正は目的は見込。次は其座は不揺

大成之圖



此は八盤尺一尺六寸ノ縮ナリ此ハ求程八丈ノ縮ナリ此ハ假借ノ縮ナリ又テテの量リ求程ヲ得ル也



を要す。斜は目的は見込。定規は隨く墨は引然る時ハ盤南より盤東へかきとく。三四五の形。盤東ハ三なり。盤南ハ四なり。盤面大成と

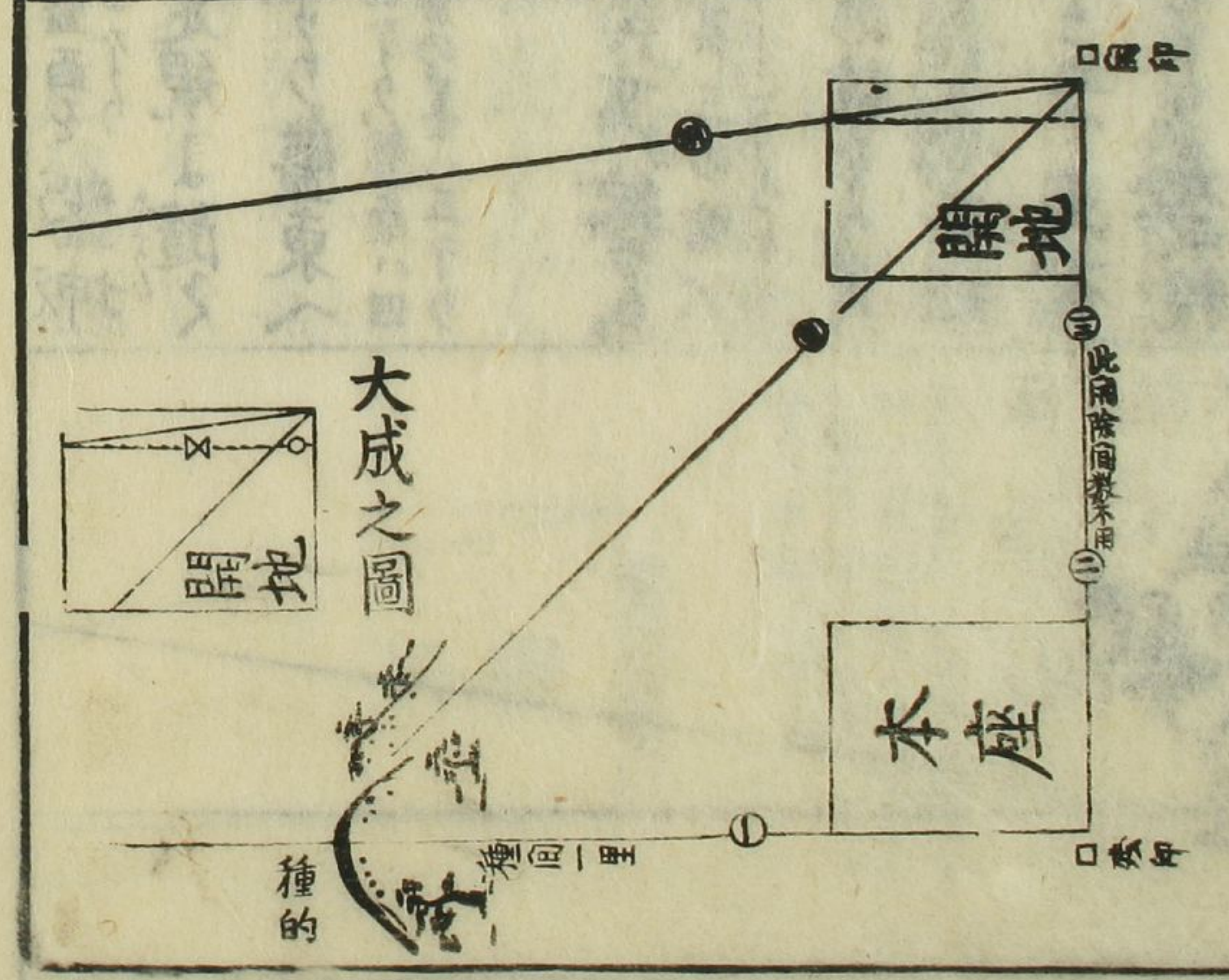
今現於所の三八開除一尺六寸は縮なり。盤の長尺たよりハ一尺六寸なり。其三の縮ハ一尺六寸の口と名する事。尋常同一なり。四ハ求程の縮なり。五ハ假借の縮なり。其三ハ開除の盤尺一尺六寸は量合其矩。盤尺一尺六寸の矩をりて。四と量るは五十変有。一変ハ一尺六寸宛なり。五十変ハ即八丈なり。是求程の間敷と知るべし。



幽遠大量方

此術ハ郡郷を累々列國と隔々十里廿里乃至卅里五十里の遠程は量るに用其法種の小目的は設き此間數を求程の矩として量知るなり。遠程は量るに小其兩除一里とて事古法は叶えりとてども一里の間數全眼力のゆゑなり地形ハ大國の中にも稀なり此故は種の小目的はゆゑなり其間數は即兩除となりて求程は量知るなり是ハ大量方と號く

術云 下圖を以て先本座より



空眼はりて山頂は目的は定遠里を量るとしてはつとても目的ハ山頂は用ひつとてつとて小本目的の此方少く山林なりとて堂塔なりとも里町の

知て種目的は定間數を兼て不知ハ其期は臨みて種の間數を量るなり。今其遠程假一里と定む次は左右いづれへ成とて兩の目的の見へ安さ方へ開地を定め。下圖を以て取ハ如此は始計として後一〇本座は盤は方正は居盤東より種目的は加もく本目的を正見込其

此ハ種間一里ノ縮口ナリ此ハ求程五里半ノ縮ナリ〇ヲ以テ又ヲ量ハニ五夾半アリ五夾半ハ即五里半ナリ是求程ノ間數ナリ委クハ本文ニ記ヌ勘合スヘシ

求程六里半種間出川

盤不搖まわらやすは居置すま②右方みぎのうへへ正ただに開除ひらきを求もとめ開印ひらを立たす也。  
此用地の回数ハ求程の種ハ不用ナリ。故ニ回数ワリヤトスルモ盤北ハ  
クニ一ウツル。但種目的ナリク遠程三十分一ニウツルヲ節トシテ 盤北は  
 定規のりに載のく是こは見通みとお本座ほんざに残印のこを立たす③開地ひらは後のちに残印のこ  
 を再見またみして盤は方正ほうせいに居す④其盤乾ばんかんを要もとめ斜しやに種目的しゆ  
 と見返墨みへすみを引ひ⑤同所どうじよを要もとめ斜しやに本目的ほんを見返墨みへすみを引ひ  
 ⑥初割盤法はつわりばんぽうをりて盤南ばんなんの見返みへの墨すみの留とどめ盤北ばんきたへ正ただに立たす  
 界かいを引渡ひきわたを然しかる時ときハ盤面大成ばんめんたいじやうと

今現いまに所ところの盤北ばんきたより種目的しゆを見返みへの墨すみをりて界かい種の間數しゆのま  
本座より種目的一里の口ナリ。種目的見返の墨より本目的見返  
より遠程より一里の口ナリ。種目的見返の墨より本目的見返  
 の墨すみは盤南ばんなんの留とどめ界かいを求程もとの間數まの縮ちぢなり其種界しゆの  
 縮口ちぢぐち種しゆの里町りぢ一里いちりに量合りやうが①此縮ちぢは一変いちへんに交まじ  
 の界かいを量りる小五交半せうごかうはんなり一変いちへん一里いちり五交半ごかうはんハ即五里半ごりはんなり。

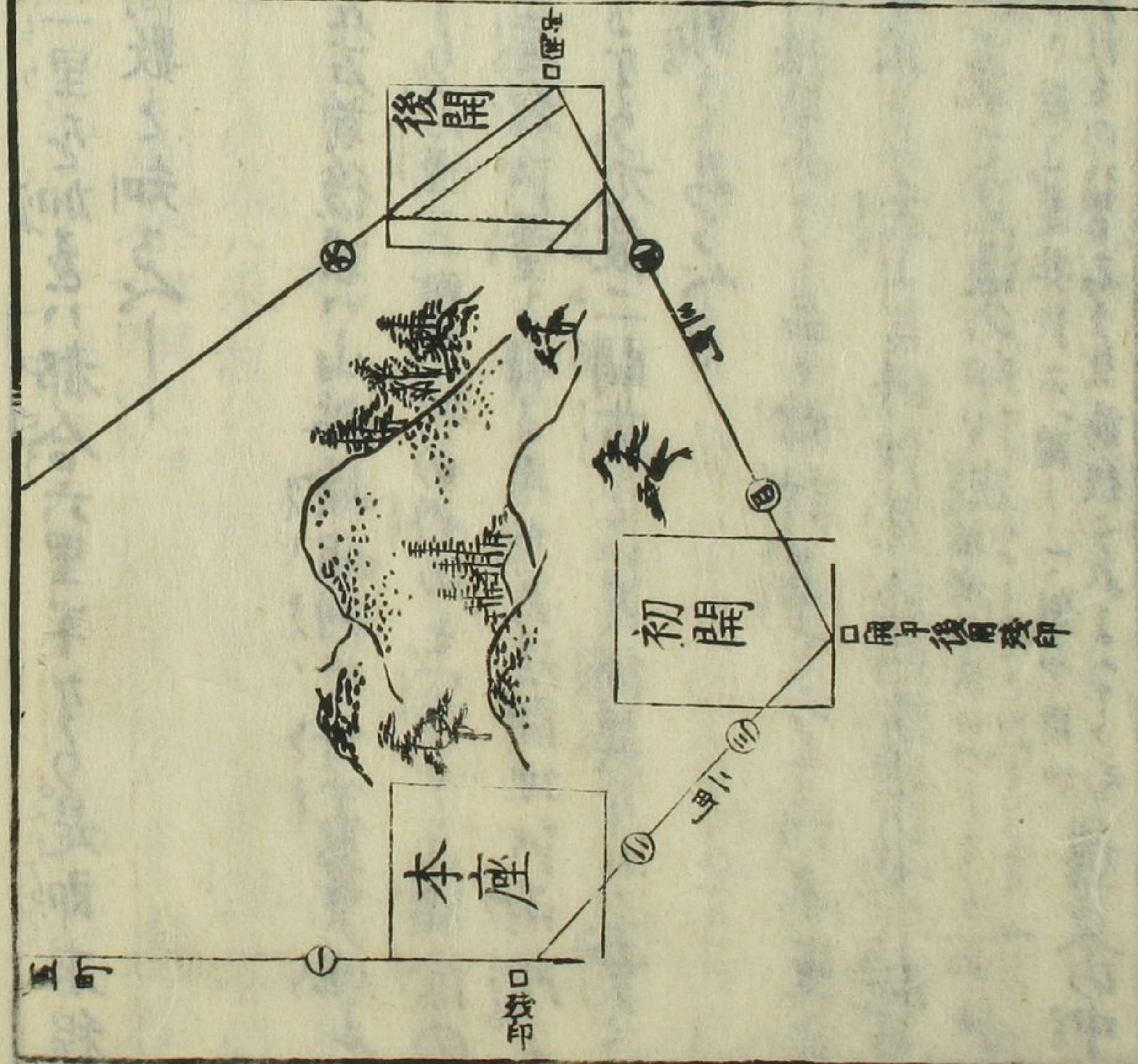
其上そのうへに種しゆの間數ま一里いちりを加くむハ都合六里半ろくりはんなり是即求程もと  
本座より本目的の間數まと知るべし  
より遠程なり

二地重開方

此術ハ本座ほんざの左右前後さゆうぜんご或ハ山林嶮岨さんりんけんそ村里竹莖りやうきやう取等との地ちを  
 一町二町の間いっぢふたぢより乃至三町四町の内さんぢよんぢに少すくと宜よろしき開除ひらの  
 場ばを求もとめ取とり遠程とほに量りる時ときは用也其法開地ひらハ兩所りやうじよに  
 累かさに求もとめ量りるなり尤彼二開方ふたひらとハ其術異ちがなり委あま

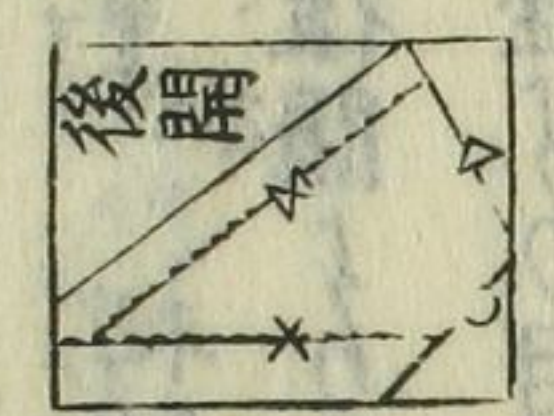
術じゆつ中ちゆうに記きす勤つとむるべし  
 術じゆつ云い下したに図ずをり作法さくぽうのおとく品々始計しんけい畢ひらてのち①本座ほんに  
 盤ばん方正ほうせいに居す盤東ばんとうより正ただに目的てきを見込みこ②右後みぎのちの方ほうへ斜しやに  
 間町まぢを定さだめ開地ひらを求もとめ見通みとおの印いんを立たす用除の法。ワリとて正  
前後左右に取らねば故に是非に論して斜を用也。盤東の中

程より少く下の方  
 少く斜に初開の  
 地は見通定規小  
 志くひて墨を引  
 本座は残印を立  
 ③開地は移り残印  
 を再見して盤は  
 方正は居(四)右前へ  
 斜に間町と定め  
 後開の地は求め  
 見通の印を立させ  
 初開の墨は盤北の



端を要小く彼  
 見通の印 後開の地の  
 用印をよみ  
 と見通其定規よ  
 随くひて墨を引⑤  
 後開の地より  
 初開の印を残印小  
 初開の見通の印  
 爰して残印とを  
 是は再見して盤  
 を方正は極⑥今  
 再見して後開の  
 墨の盤西の端を  
 要小く本目的を

大成之圖



此○ハ初開二町ノ縮口ナリ  
 此△ハ後開三町ノ縮口ナリ  
 此△ハ見返假借ノ縮口ナリ  
 此×ハ求程五町ノ縮口ナリ  
 ○△×等ヲ量リタル矩ヲ以  
 テ×ヲ量ルニ五変アリ五変  
 ハ即五町也是求程ノ同数也  
 其作法ノ書ナル一本文ニ記  
 ルス考ヘン



求程

見返墨引界 扱盤法はとも見返の墨乃盤南の留り  
 初開の見通の墨まじり南北へ正堅界引渡 此界申求程の縮とならうり  
 其界と墨との會より盤北の要まじり初開の墨と其間數 初開の同數也  
 二町量合 會より要まじり二夾より夾合セ 其矩より後開の墨引  
 其間數 後開の同數也 三町量取 量取よりつらど成とも其矩をりて其間數  
 其より違つ混ざり 其墨のより余り分をば用ひ 其より留より求程の界まじり又斜小  
 界と引 此界ハ見返の墨に随ひ曲節 然して盤面大成と  
 今現る所の盤良の方の墨ハ本座より初開より後開より見通三町の縮  
 の縮なり盤乾の方の墨ハ初開より後開より見通三町の縮  
 なり盤坤の方の界ハ後開より目的まじり見返假借の縮あり  
 盤東の方の界ハ本座より目的まじり見込求程の縮なり扱  
 初の矩 初開後開をより 五夾 一夾一町 求程の界を量るより五夾より

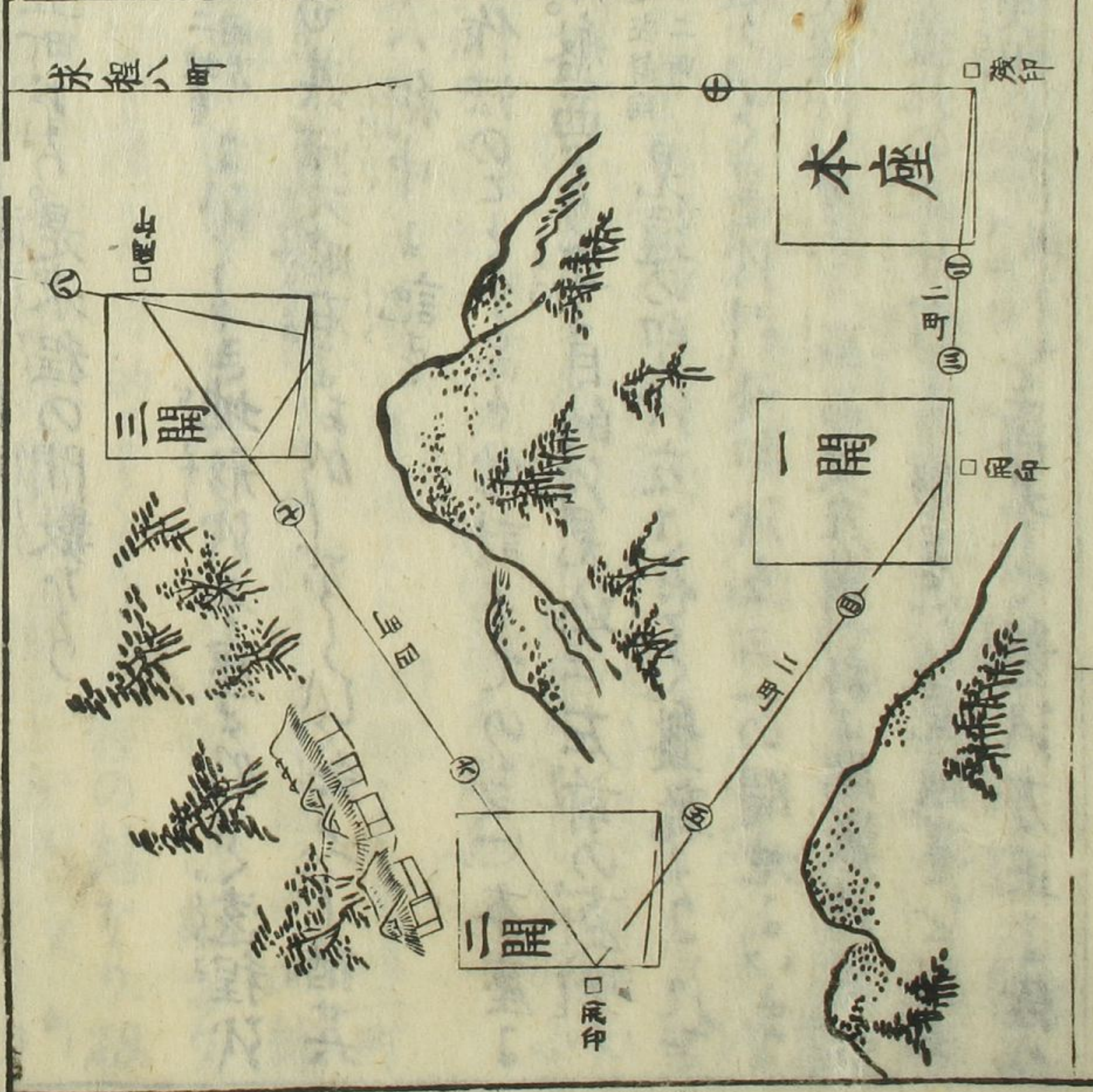
あり五夾より五町なり是求程の間數なり

三地重開方

此術も前術 二地重 一いとも地形本座より遠程  
 量る小用也其法大略右よおのりなり知るべし猶其  
 審なる事ハ術中ニ記と

術云 下は図を 作法のことく品々始計してのら (一) 本座  
 盤正方正居盤西より正目的見込 (二) 左前の方へ少  
 斜の間數決定 左斜間 見通の印立させり盤乾よりこれを  
 見通定規に随ひて墨引残印立 (三) 一の開地より  
 残印立再見して盤正方正極 (四) 又左前へ斜の間數決定  
 左斜間 三町 開印立させり盤北の正中程より斜は是は見通墨と引 (五)  
 二の開地より迂り残印 一兩の用印印 再見して盤正方正極

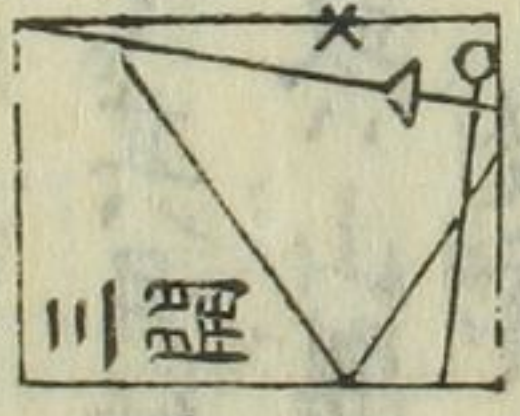
⑥ 右前へ斜に  
間敷決定。右斜間  
開印立一の  
開地の残印を  
再見しつる墨  
の盤東の端を  
要小して開印  
を見通墨を引  
て盤の方極  
移り。残印 二用の  
成りつるを再見  
て盤の方極



⑦ 今二の開地を  
再見しつる盤  
西の墨の端を  
會小して盤北  
より斜に目的  
を見通定規を  
随ひつる墨を引  
時ハ盤西より  
盤北へかきこ  
三四五の形現  
す。然しつる  
盤面大成と



大成之圖



此〇ハ初間二町ノ縮町也  
此Xハ求程八町ノ縮町也  
此△ハ假借ノ縮町也  
○ヲ以テXヲ量リ其求程  
ヲ得ルハ他術ニ同シ

右此一術本法ヲ攬るゝと速く還る學者惑ひ  
生し畧法ヲ用ると速く初心會ひ安  
爰ハゆゑ今其本法ヲ措く其畧法ヲ因  
覽者一々此旨ヲ察して妄まこれヲ拘泥  
せど彼も此をも俱く用ふべし

今現る所の。三ハ初開の縮なり。四ハ求程の縮なり。五ハ假借の縮なり。其三を。初開の間數二町は量合此三を一変二変三変と名するなり。二町の矩と名するなり。其矩少く四を量る少四変一変二町なり。四変ハ即八町なり。是求程の間數と知るべし。と云く此法のどく織密幽妙なり力の候勿忘り記しつりがし。ふくひきりていしく注釈加へり。初學者の人の曉しむべき事なり。此故。今其大畧の及ぼす巨細の後。是併參攷工夫の爲なり。日逐逐月を隔りて切瑳琢磨。黎明の白昼より。其理と云ふも。奥ゆきひつり。事とのいためて捨置るは。悟り期終る有べし。學者と云ふは思望し。

累隔指正方

此術ハ山林村里等ハ累隔て。其目的不見ところなり。正當ハ遠程ハ量る用也。或ハ山腹を穿ちて澗水ハ此方へ通し。或ハ森林林ハ超へて發貢の幕場と定等のくめい。皆此術ハ用也。

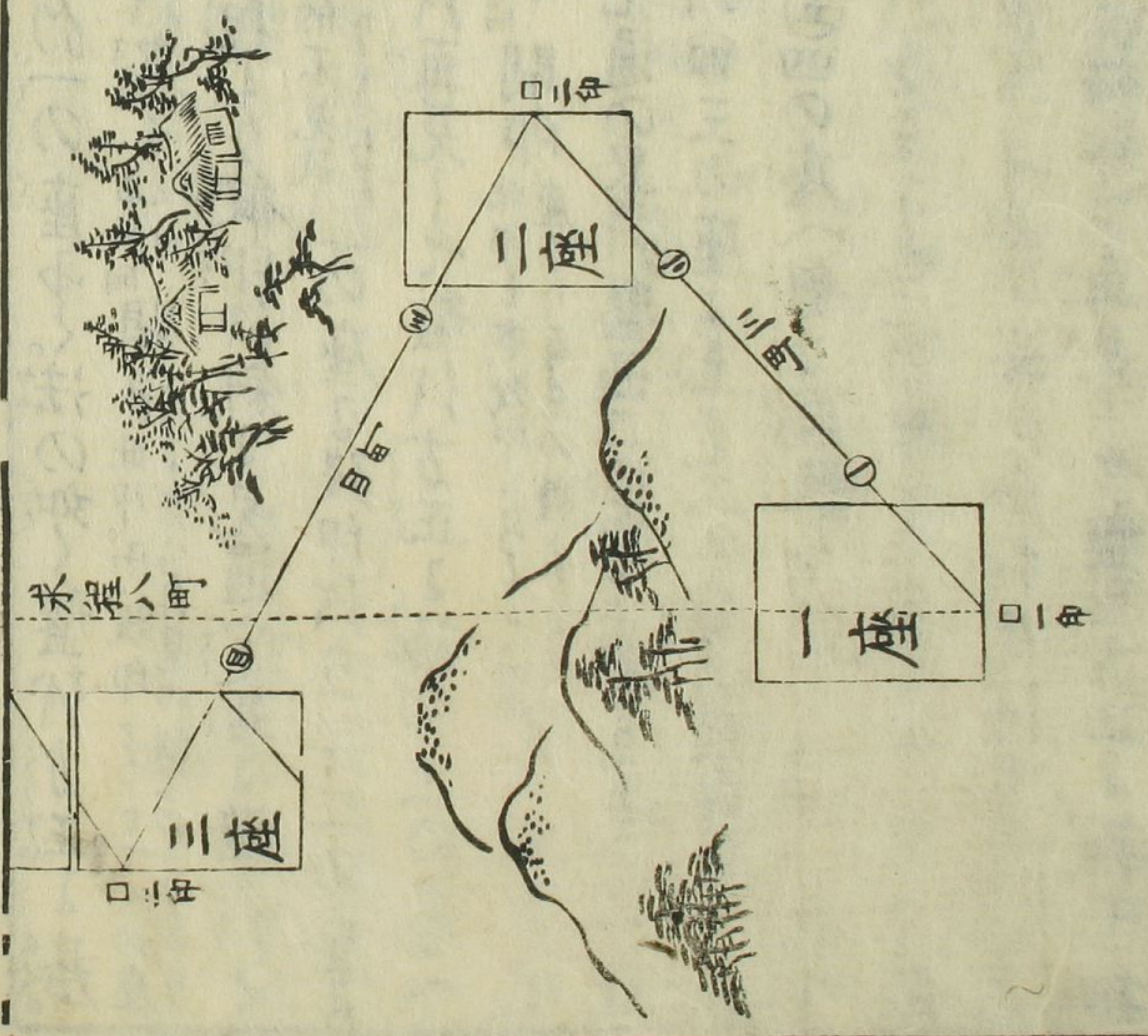
術云

下は図す。取をかり云

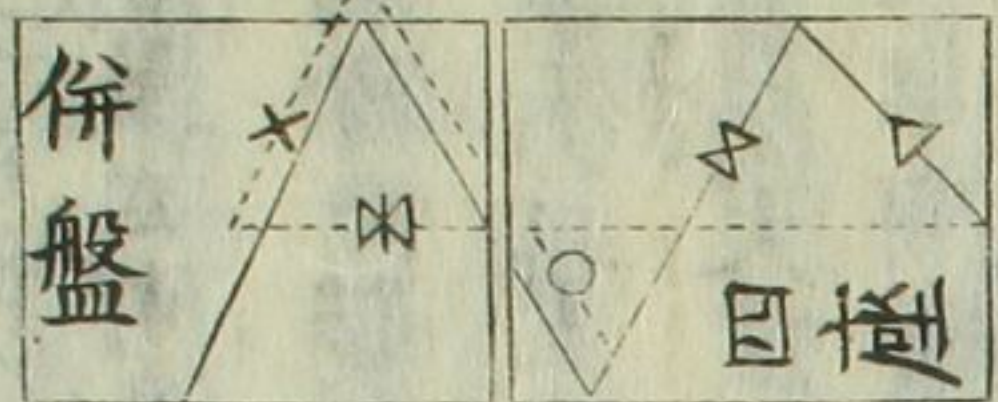
一の座より二の座へ法右斜向の如く盤ハ方正此印。即。残印と云りて。三の座よりハ再見の種と云り居。二の座へ斜ハ間數ハ定三町開印此印。即。残印と云りて。三の座よりハ再見の種と云りを立させ。墨ハ引。本座より目的不見故。見込の作法。いかに云り一の座ハ殘印ハ立。二の座ハ迂り。一の座乃殘印ハ再見して盤ハ方正極三の座へ斜ハ間數ハ定四町開印此印も亦。殘印と云りて。四の座より再見の種と云りを立させ。一の座より二の座へ見通の墨ハ盤西乃端を要して。三の座の印ハ見通。墨ハ引。四の座ハ至。二の座の殘印を再見して。盤ハ方正極五の座へ斜ハ間數を定五町開印右斜向。此所より。目的見ゆる故。を立させ。二の座より三の座へ見通の墨ハ盤東の端を要して。四の座の印ハ見通。墨ハ引。六の座へ移り。三の座の殘印を再見して盤を方正極七の



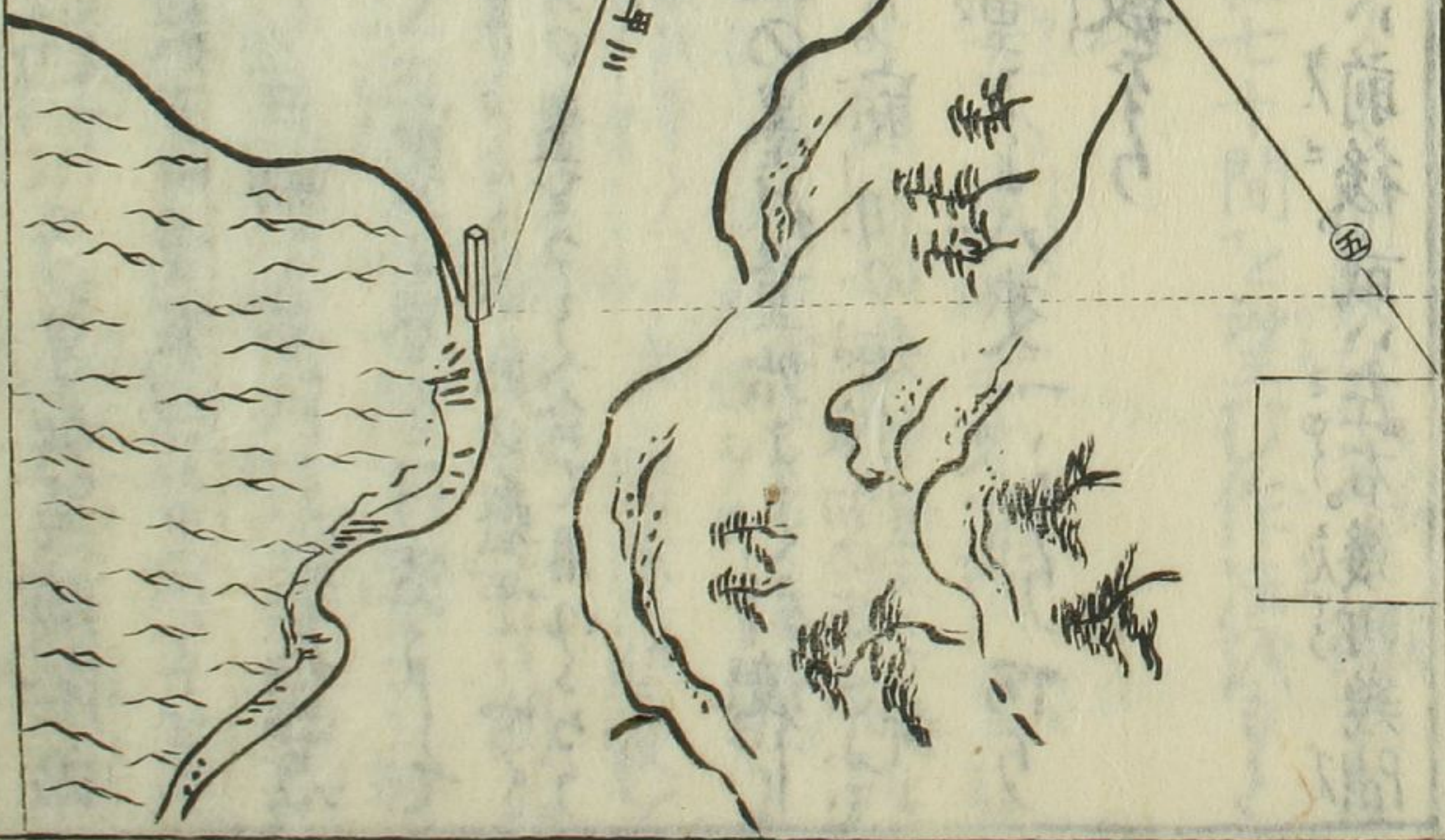
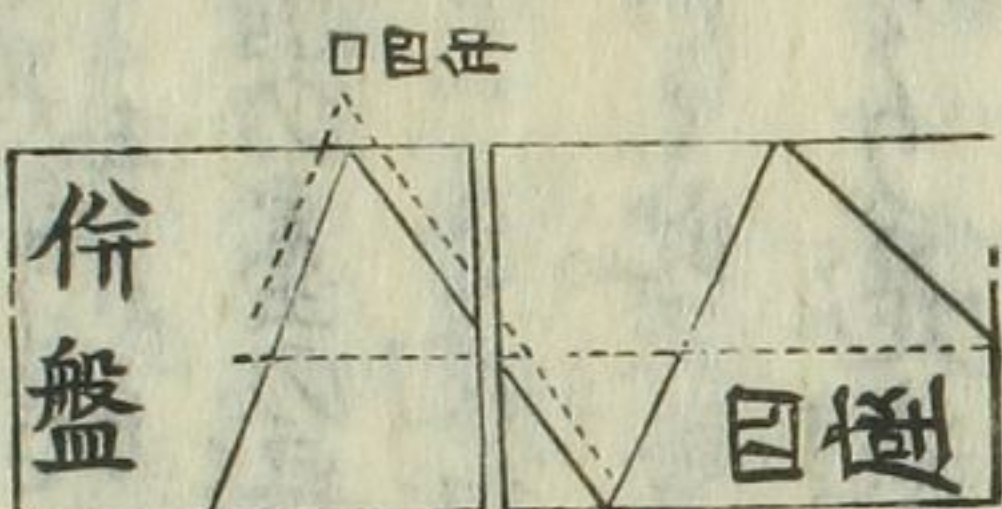
目的へ斜に間敷状  
 定<sup>左斜向</sup>三の座より  
 四の座へ見通の墨の  
 盤東の端を要し  
 して本目的の見返  
 四の座より目的の見ゆ  
 少く。爰より見返より  
 定規に随く墨を引。  
 界<sup>まては</sup>割盤法<sup>た</sup>めりて  
 新<sup>あ</sup>分間の矩<sup>ま</sup>設<sup>か</sup>  
 此矩ハソグきの縮<sup>ちぢ</sup>と  
 かり。盤面の墨の  
 長短は随ひて。ゆゑに  
 やく。制<sup>さ</sup>されたり  
 其矩<sup>ま</sup>をく。一の墨<sup>すゑ</sup>状



大成之圖



△八二ノ向三町ノ縮ナリ  
 ×八三ノ向四町ノ縮ナリ  
 ○八三ノ向五町ノ縮ナリ  
 ×八四ノ向三町ノ縮ナリ  
 ×八五ノ向三町ノ縮ナリ  
 ×八六ノ向八町ノ縮ナリ  
 △×八等ヲ量タル矩ヲ  
 以テ×ヲ量リテ即求程ノ  
 向敷ヲ得ル也



其開除の間數三町量取。量取作法らり。二の墨は其開除の間數四町量取。三の墨は其開除の間數五町量取。四乃墨と其開除の間數三町量取。各圖乃おとく巨細の界は引初其四乃墨上の量終り。一の墨の量始まると。正堅は界を引然るして盤面大成とを。見通が。故にまの外の盤をうへ合て用ゆる。是は併盤法と名く其法一は作法。或向の編中よちれと

今現新所の。四の墨の量終り。一の墨は量始まると引渡り。正堅は界は。即求程の縮なり。家初の矩刺盤法よて新の向の矩也を。此正堅の界を量る。八変一変一町。八変一即八町なり。是求程の間數なり。

無的定間方

此術ハ間繩竿ハ不用して。或ハ前後。或ハ左右。幾町幾間

あくと。其望む取は随ひく。居る間數は定る術なり。今爰に此方より彼方まると遠程七十間を望む作法は。記と。術中よ述ふ。餘は推して知るべし。

術云。下は図より。あくと。此方より彼方へ。遠程七十間は望む時。盤の四を。盤東は。七十間の摸と定其七十間は

昂盤四に割合。割合は。盤東の端を。盤北より盤南まると。有餘不足を。新に。分間の矩は制し置。此矩用除の間數は量る。次は開除の間數を

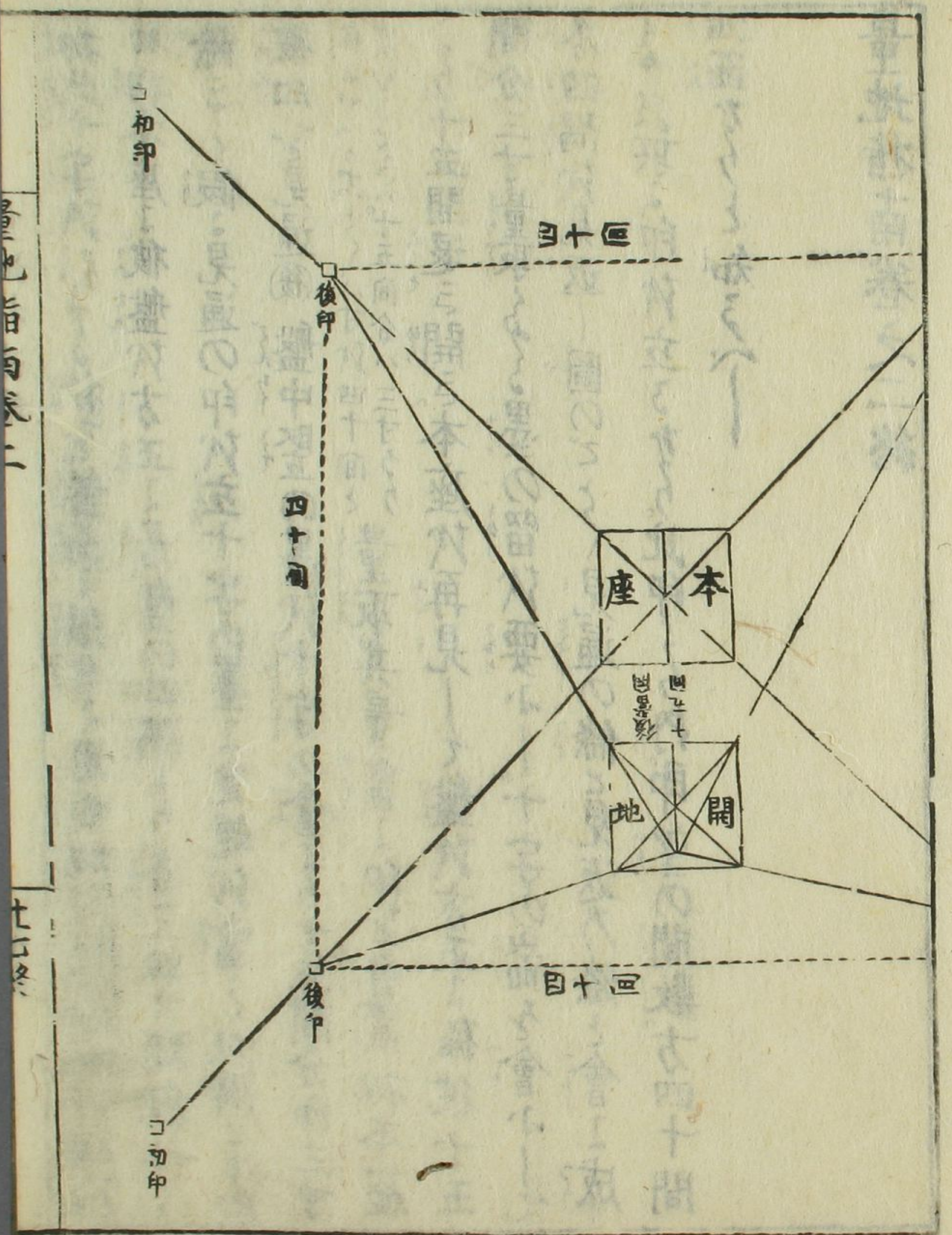
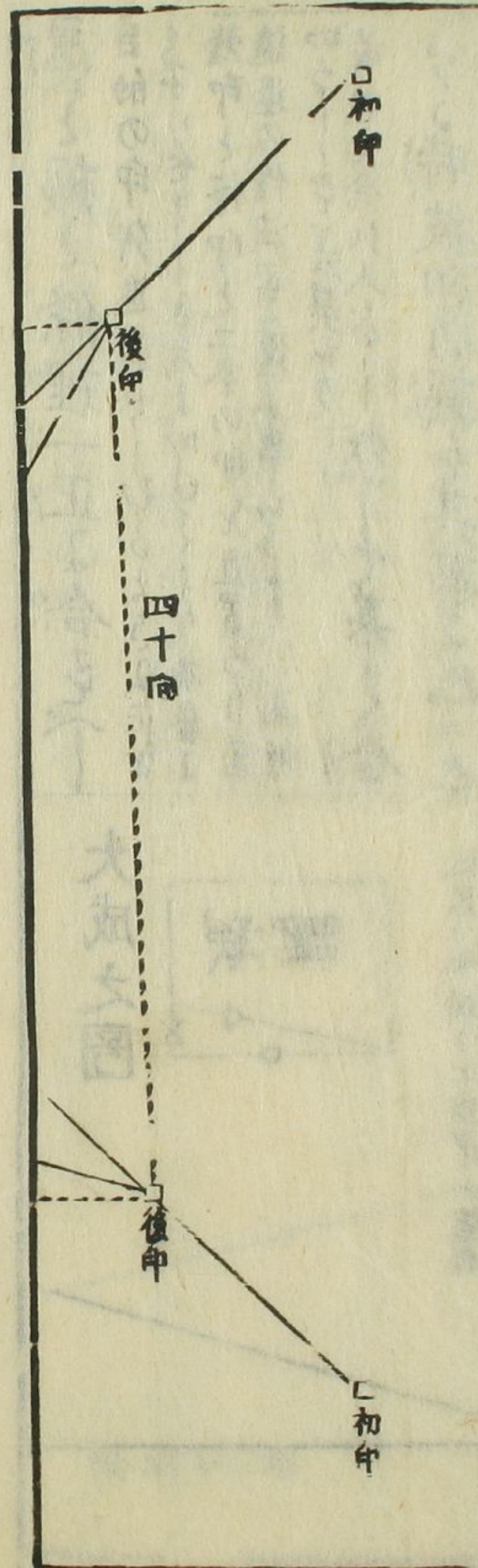
十七間半と定。此間數十七間半は除る。彼盤四を七十間と割合。矩をりく。盤三。盤北をりて。十七間半量り取

其矩の量留り。七十間の矩の留へ。定規は當。斜に墨は引渡を。然る時。豫盤面は三四五の形は。是す。以前の事ハ本座よ。一本本座を。圖は。大射望の間數



為に為る其緩急は不論也。後爰に教員と覽者好事の  
言をりて。誥る事なり。

術云 下は図を云 本座は正中と成りて方面四十間状  
望む時。まづ白紙一枚は四方同寸と裁き假し是は四十間  
四方れ摸と定 九四方同寸を云は其紙の廣狭は八寸四方なり。二歩を一回と。二寸を十間  
とし。八寸を四十間と定め。即 此矩より。圖のどく紙面の隅より隅へ十字は  
墨を引と。此十字の墨。即方面四十間れ四隅なり 豎面よと再見の為は墨を引。



扱此十字引く紙を盤面に張付く用也。是れ以上の事は本座より出され以前の法なり  
 初扱本座より彼盤の方正に居盤の四隅より各二四十間程つゝ  
 除く。假し見通の印が立十字の墨に定規が當り四隅とも小  
 彼印を見通後盤中堅の墨に十字の會より十五間分即三寸  
右よりいふがごとくハ寸は四十間と定むるとこハ十五間分ハ三寸なり 量取其量留し印を付置扱本座  
 より十五間退き開き本座に再見して盤の方正に極彼十五  
 間分三寸量取らむ墨の留に要し十字の出而を會しして  
 各四隅に見返し圖のごとく見通の條と見返の條と會し成  
くも取し印が立るなり此印より内即望の間數方四十間  
 四面なりと知るべし

量地指南卷之二終

